

平成 2 9 年 第 2 回

芦北町議会 3 月 定例会 会議録

開会 平成 2 9 年 3 月 3 日

閉会 平成 2 9 年 3 月 1 7 日



熊本県芦北町議会

平成29年第2回芦北町議会定例会会期日程

月 日	曜日	日 程
3・3	金	(開 会) 本会議 諸報告 議長諸般の報告 行政報告 平成29年度施政方針と予算大綱説明 議案審議 議案の委員会付託 委員会審査 平成29年度芦北町一般会計予算(歳入)の連合 審査会
4	土	休 日
5	日	休 日
6	月	委員会審査 建設経済(現地調査、建設課、農林水産課) 文教厚生(教育課、福祉課)
7	火	委員会審査 総 務(企画財政課、総務課、議会事務局) 文教厚生(生涯学習課、住民生活課)
8	水	委員会審査 総 務(田浦基幹支所、会計室、税務課) 建設経済(農業委員会事務局、上下水道課、商工観光課)
9	木	委員会審査予備日
10	金	委員会審査予備日
11	土	休 日
12	日	休 日
13	月	休 会(議事整理)
14	火	休 会(議事整理)
15	水	休 会(議事整理)
16	木	本会議 一般質問
17	金	本会議 議案審議(委員長報告) 閉会中の継続調査の申出 (閉 会)

目 次

	第1号（3月3日）	頁
1	議事日程	3
2	出席議員氏名	4
3	欠席議員氏名	4
4	説明のため出席した者の職氏名	4
5	事務局職員出席者	5
6	開会 開議	9
第1	会議録署名議員の指名	9
第2	会期の決定について	9
第3	諸報告	9
	議長諸般の報告	9
	行政報告	9
第4	議案第2号 平成28年度芦北町一般会計補正予算（第8号）	9
第5	議案第3号 平成28年度芦北町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）	15
第6	議案第4号 平成28年度芦北町介護保険事業特別会計補正予算（第4号）	16
第7	平成29年度施政方針と予算大綱説明	17
	（一括議題＝第8から第16まで）	
第8	議案第5号 平成29年度芦北町一般会計予算	26
第9	議案第6号 平成29年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算	27
第10	議案第7号 平成29年度芦北町介護保険事業特別会計予算	27
第11	議案第8号 平成29年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算	27
第12	議案第9号 平成29年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算	27
第13	議案第10号 平成29年度芦北町有温泉事業特別会計予算	27
第14	議案第11号 平成29年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算	27
第15	議案第12号 平成29年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算	27
第16	議案第13号 平成29年度芦北町水道事業会計予算	27
	（一括議題＝第17から第19まで）	
第17	議案第14号 芦北町ふるさと応援寄附金基金条例の制定について	28
第18	議案第15号 芦北町使用料等審議会条例の制定について	28
第19	議案第16号 芦北町特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に	

	関する条例の一部を改正する条例の制定について ……	28
第20	議案第17号 芦北町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について ……	29
	(一括議題＝第21から第22まで)	
第21	議案第18号 芦北町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について ……	30
第22	議案第19号 芦北町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について ……	30
第23	議案第20号 芦北町税条例等の一部を改正する条例の制定について ……	31
第24	議案第21号 芦北町国民健康保険直営診療所条例の一部を改正する条例の制定について ……	32
第25	議案第22号 芦北町介護保険条例の一部を改正する条例の制定について ……	33
7	散 会 ……	34
第2号(3月16日)		
1	議事日程 ……	37
2	出席議員氏名 ……	37
3	欠席議員氏名 ……	37
4	説明のため出席した者の職氏名 ……	37
5	事務局職員出席者 ……	38
6	開 議 ……	43
第1	一般質問 ……	43
	(1) 宮内道則議員第1回目一般質問 ……	43
	○竹崎町長答弁 ……	44
	○竹浦教育長答弁 ……	44
	○藤井農林水産長答弁 ……	45
	○長船教育課長答弁 ……	45
	○櫻井福祉課長答弁 ……	45
	○一丸住民生活課長答弁 ……	46
	(2) 宮内道則議員第2回目一般質問 ……	46
	○長船教育課長答弁 ……	47
	(3) 宮内道則議員第3回目一般質問 ……	47
	○一丸住民生活課長答弁 ……	48

(4) 宮内道則議員第4回目一般質問	48
(1) 坂本登議員第1回目一般質問	49
○竹崎町長答弁	49
○澁谷教育委員長答弁	50
○長船教育課長答弁	50
○宮下生涯学習課長答弁	50
○竹浦教育長答弁	50
○柳田企画財政課長答弁	51
(2) 坂本登議員第2回目一般質問	51
○長船教育課長答弁	51
(3) 坂本登議員第3回目一般質問	52
○宮下生涯学習課長答弁	52
(4) 坂本登議員第4回目一般質問	52
○竹崎町長答弁	53
(5) 坂本登議員第5回目一般質問	53
○長船教育課長答弁	53
(6) 坂本登議員第6回目一般質問	53
○柳田企画財政課長答弁	56
(7) 坂本登議員第7回目一般質問	57
○竹崎町長答弁	58
(8) 坂本登議員第8回目一般質問	58
(1) 川尻成美議員第1回目一般質問	58
○竹崎町長答弁	60
○山元総務課長答弁	60
○園川商工観光課長答弁	60
○柳田企画財政課長答弁	60
(2) 川尻成美議員第2回目一般質問	61
○竹崎町長答弁	61
○山元総務課長答弁	62
(3) 川尻成美議員第3回目一般質問	62
○山元総務課長答弁	63
(4) 川尻成美議員第4回目一般質問	63
○竹崎町長答弁	63
(5) 川尻成美議員第5回目一般質問	63

○柳田企画財政課長答弁	64
(6) 川尻成美議員第6回目一般質問	65
○柳田企画財政課長答弁	65
(7) 川尻成美議員第7回目一般質問	65
○柳田企画財政課長答弁	65
(8) 川尻成美議員第8回目一般質問	65
○竹崎町長答弁	66
(9) 川尻成美議員第9回目一般質問	66
(1) 荒川知章議員第1回目一般質問	66
○竹崎町長答弁	68
○園川商工観光課長答弁	68
○柳田企画財政課長答弁	69
○一丸住民生活課長答弁	70
(2) 荒川知章議員第2回目一般質問	70
○園川商工観光課長答弁	71
(3) 荒川知章議員第3回目一般質問	71
○竹崎町長答弁	71
(4) 荒川知章議員第4回目一般質問	72
○柳田企画財政課長答弁	72
(5) 荒川知章議員第5回目一般質問	72
○柳田企画財政課長答弁	72
(6) 荒川知章議員第6回目一般質問	73
○園川商工観光課長答弁	73
(7) 荒川知章議員第7回目一般質問	73
○園川商工観光課長答弁	74
(8) 荒川知章議員第8回目一般質問	74
○一丸住民生活課長答弁	76
(9) 荒川知章議員第9回目一般質問	76
7 散 会	76

第3号（3月17日）

1 議事日程	79
2 出席議員氏名	79
3 欠席議員氏名	80

4	説明のため出席した者の職氏名	80
5	事務局職員出席者	80
6	開 議	82
	(一括議題＝第1から第12まで)	
第1	議案第5号 平成29年度芦北町一般会計予算	82
第2	議案第6号 平成29年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算	82
第3	議案第7号 平成29年度芦北町介護保険事業特別会計予算	82
第4	議案第8号 平成29年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算	82
第5	議案第9号 平成29年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算	82
第6	議案第10号 平成29年度芦北町有温泉事業特別会計予算	82
第7	議案第11号 平成29年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算	82
第8	議案第12号 平成29年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算	82
第9	議案第13号 平成29年度芦北町水道事業会計予算	82
第10	議案第14号 芦北町ふるさと応援寄附金基金条例の制定について	82
第11	議案第15号 芦北町使用料等審議会条例の制定について	82
第12	議案第16号 芦北町特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に 関する条例の一部を改正する条例の制定について	82
第13	議員派遣の件	95
	(一括議題＝第14から第17まで)	
第14	総務常任委員会の閉会中の継続調査の申出	95
第15	建設経済常任委員会の閉会中の継続調査の申出	95
第16	文教厚生常任委員会の閉会中の継続調査の申出	95
第17	議会運営委員会の閉会中の継続調査の申出	95
7	閉 会	95

平成 29 年第 2 回芦北町議会定例会議事日程（第 1 号）

平成 29 年 3 月 3 日

午前 10 時 開 会

於 議 場

1 議事日程

開会宣告

第 1 会議録署名議員の指名

第 2 会期の決定について

第 3 諸報告

議長諸般の報告

行政報告

第 4 議案第 2 号 平成 28 年度芦北町一般会計補正予算（第 8 号）

第 5 議案第 3 号 平成 28 年度芦北町国民健康保険事業特別会計補正予算
（第 3 号）

第 6 議案第 4 号 平成 28 年度芦北町介護保険事業特別会計補正予算（第
4 号）

第 7 平成 29 年度施政方針と予算大綱説明

（一括議題＝第 8 から第 16 まで）

第 8 議案第 5 号 平成 29 年度芦北町一般会計予算

第 9 議案第 6 号 平成 29 年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算

第 10 議案第 7 号 平成 29 年度芦北町介護保険事業特別会計予算

第 11 議案第 8 号 平成 29 年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算

第 12 議案第 9 号 平成 29 年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算

第 13 議案第 10 号 平成 29 年度芦北町有温泉事業特別会計予算

第 14 議案第 11 号 平成 29 年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算

第 15 議案第 12 号 平成 29 年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算

第 16 議案第 13 号 平成 29 年度芦北町水道事業会計予算

（一括議題＝第 17 から第 19 まで）

第 17 議案第 14 号 芦北町ふるさと応援寄附金基金条例の制定について

第 18 議案第 15 号 芦北町使用料等審議会条例の制定について

第 19 議案第 16 号 芦北町特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に
関する条例の一部を改正する条例の制定について

第 20 議案第 17 号 芦北町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正す

る条例の制定について

(一括議題＝第21から第22まで)

第21 議案第18号 芦北町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

第22 議案第19号 芦北町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

第23 議案第20号 芦北町税条例等の一部を改正する条例の制定について

第24 議案第21号 芦北町国民健康保険直営診療所条例の一部を改正する条例の制定について

第25 議案第22号 芦北町介護保険条例の一部を改正する条例の制定について

(散 会)

2 出席議員（16人）

1番 荒 川 知 章 君
3番 宮 内 道 則 君
5番 古 村 逸 男 君
7番 草 野 安 道 君
9番 元 山 秀 志 君
11番 平 松 洋 一 君
13番 藤 井 公 明 君
15番 水 口 宣 之 君

2番 坂 本 登 君
4番 寺 本 順 一 君
6番 白 坂 康 浩 君
8番 前 田 徹 一 君
10番 宮 尾 秀 行 君
12番 川 尻 成 美 君
14番 岡 部 恵美子 君
16番 寺 本 修 一 君

3 欠席議員（0人）

4 説明のため出席した者の職氏名（18人）

町 長	竹 崎 一 成 君	副 町 長	藤 崎 正 司 君
教育委員長	澁 谷 百 鍊 君	教 育 長	竹 浦 裕 道 君
総 務 課 長	山 元 信 作 君	企画財政課長	柳 田 豊 彦 君
税 務 課 長	楠 原 清 照 君	住民生活課長	一 丸 喜八郎 君
福 祉 課 長	櫻 井 優 一 君	農林水産課長	藤 井 哲 郎 君
商工観光課長	園 川 民 夫 君	建 設 課 長	下 田 研 君
上下水道課長	坂 道 征 一 君	会計管理者兼 会 計 室 長	井手口 浩 二 君

田浦基幹支所長	宮 石 幸 人 君	教 育 課 長	長 船 正 純 君
生涯学習課長	宮 下 祐 一 君	農 業 委 員 会 事 務 局 長	告 畑 一 彦 君

5 職務のため出席した事務局職員の職氏名（2人）

議会事務局長	岩 間 睦 生 君	次長(課長補佐)	佐 竹 貴 幸 君
--------	-----------	----------	-----------

議長諸般の報告

1 例月現金出納検査結果報告書（別紙のとおり）

2 水俣芦北広域行政事務組合議会定例会

期 日 平成28年12月19日（月）

場 所 水俣芦北広域行政事務組合多目的ホール

議 題 ・水俣芦北広域行政事務組合職員の給与に関する条例及び水俣芦北広域行政事務組合職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について（原案可決）
・水俣芦北広域行政事務組合火災予防条例の一部を改正する条例の制定について（原案可決）
・継続費の継続終了による精算について
・平成27年度水俣芦北広域行政事務組合一般会計歳入歳出決算認定について（原案認定）
・平成28年度水俣芦北広域行政事務組合一般会計補正予算（第2号）について（原案可決）

3 熊本県町村議会議長会理事会議

期 日 平成28年12月22日（木）

場 所 熊本県市町村自治会館（熊本市）

議 題 ・平成28年熊本地震の被害状況等について
・見舞金の配分について
・鳥取県議長会への見舞金贈呈について
・全国議長会関係事項等の報告
・平成29年度会務運営方針及び予算案について

4 熊本県町村議会議長会議長研修会

期 日 平成29年1月12日（木）

場 所 熊本県市町村自治会館（熊本市）

内 容 ・講演

演題「地方議会の活性化には何が必要か」

講師 熊本大学法学部教授 伊藤洋典 氏

5 熊本県町村議会議長会理事会議

- 期 日 平成29年2月3日（金）
- 場 所 熊本県市町村自治会館（熊本市）
- 議 題 ・平成28年熊本地震の被害状況等について
・見舞金の配分について
・第67回定期総会の運営について
・平成29年度会議予定及び各種研修会講師などについて
・全国議長会関係事項等の報告

6 熊本県町村議会議長会第67回定期総会

- 期 日 平成29年2月17日（金）
- 場 所 熊本テルサ（熊本市）
- 表 彰 全国町村議会議長会表彰状伝達
熊本県町村議会議長会表彰
- 議 題 ・会務報告
・平成27年度歳入歳出決算の認定を求める件（認定）
・平成29年度歳入歳出予算の議決を求める件（可決）
・各郡提出案件の審議（葦北郡：交通・産業基盤及び農業生産基盤の整備について要望）（可決）
・宣言（可決）
・決議（可決）
・「平成28年熊本地震」からの復旧・復興に関する特別決議（可決）

平成29年3月3日

芦北町議会議長 寺 本 修 一

芦町監第49号
平成29年2月10日

芦北町議会議長 寺 本 修 一 様

芦北町監査委員 山 下 生 吾
芦北町監査委員 古 村 逸 男

例月現金出納検査の結果に関する報告の提出について

地方自治法第235条の2第1項の規定により例月現金出納検査を実施したので、同条第3項の規定により、その結果に関する報告を下記のとおり提出します。

記

1 検査の対象

会計管理者の権限に属する現金（歳計現金、一時借入金及び基金並びに歳入歳出外現金）の出納及び保管

2 検査現在期日

平成29年1月31日

3 検査実施日

平成29年2月10日

4 検査の結果及び意見

検査現在期日における歳計現金及び基金並びに歳入歳出外現金（一時借入金なし）の保管状況は、預金通帳、保管現金及び現金保管状況一覧表と照合した結果すべて符合し相違ないこと及び適正に処理されていることを確認した。

また、出納事務については、現金出納にかかる証拠書類及び関係帳表と照合、検査の結果、計数に誤りはなく何ら不正非違の点も見受けられず、すべて適正に処理されていることを認めた。

なお、参考まで検査現在期日における現金の現在高は、次のとおりである。

一般会計・特別会計	歳 計 現 金	1,041,277,247 円
	一 時 借 入 金	0 円
	基金に関する現金	5,720,993,868 円
	歳入歳出外現金	38,144,196 円
	計	6,800,415,311 円
水道事業会計		307,131,464 円

開会 午前１０時００分

-----○-----

○議長（寺本修一君） おはようございます。

ただいまから平成２９年第２回芦北町議会定例会を開会します。

これより本日の会議を開きます。

お手元に配付の議事日程にしたがって会議を進めてまいります。

-----○-----

第１ 会議録署名議員の指名

○議長（寺本修一君） 日程第１「会議録署名議員の指名」を行います。

本定例会の会議録署名議員は、会議規則第１２３条の規定により、１番 荒川知章君及び２番 坂本登君の２人を指名します。

-----○-----

第２ 会期の決定について

○議長（寺本修一君） 日程第２「会期の決定」についてを議題とします。

お諮りします。本定例会の会期は、議会運営委員会から答申に基づき、本日から３月１７日までの１５日間にしたいと思います。御異議ありませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。したがって、本定例会の会期は、本日から３月１７日までの１５日間に決定しました。

-----○-----

第３ 諸報告

○議長（寺本修一君） 日程第３「諸報告」を行います。

例月現金出納検査結果、閉会中に出席した議長諸般の報告及び町長の行政報告の内容は、お手元に配付のとおりです。

以上で、諸報告を終わります。

-----○-----

第４ 議案第２号 平成２８年度芦北町一般会計補正予算（第８号）

○議長（寺本修一君） 日程第４、議案第２号「平成２８年度芦北町一般会計補正予算（第８号）」を議題とします。

本案について説明を求めます。柳田企画財政課長。

○企画財政課長（柳田豊彦君） おはようございます。

それでは、議案第２号、平成２８年度芦北町一般会計補正予算（第８号）について御説明をいたします。

今回の補正は、歳入歳出予算それぞれに２億８，６８２万１，０００円を追加し、

予算の総額を１０４億１，９８２万９，０００円とするものであります。その他繰越明許費、債務負担行為、地方債につきましても、それぞれ補正をしておりますので、順次説明をしたいと思います。

まず、歳出を説明いたしますので、事項別明細書の１２ページをご覧くださいと思います。２款総務費の財産管理費において２億５，０７７万９，０００円を追加しております。これは前年度の繰越金や国債運用で生じた益金を各種基金に積み立てるものでございます。併せて、ふるさと納税制度による寄附金も基金化をする予定であります。なお、このふるさと寄附金を積み立てるための条例につきましても、本定例会に提出をしておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

３款民生費の４目高齢者福祉の４７０万５，０００円のうち、備品購入費の１００万円につきましては、ＮＰＯ法人が行う高齢者生きがい活動促進事業に必要な備品を購入するもの、次の３７０万５，０００円につきましては、地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金というもので、町内の福祉施設が実施します防犯カメラの設置に対する交付金であります。

次の児童福祉総務費の３１６万５，０００円は、子ども医療扶助費が不足する見込みとなったために追加をするものでございます。

次が４款です。衛生費の環境衛生費３３２万１，０００円のうち、１１の需用費１７万５，０００円から委託料１５１万１，０００円までは、県の補助事業として実施をいたします海岸漂着物の回収事業に関する費用でございます。

次の１９負担金５３万３，０００円につきましては、水俣芦北広域行政事務組合火葬場の費用に不足が生じる見込みとなったため、追加をするというものでございます。

その下、健康増進事業費の９８万円につきましては、各種検診委託料に不足を生じる見込みとなったため追加をいたします。

次が１３ページ、５款農林水産業費になります。農業振興費の３７２万４，０００円は、ＪＡあしきたがＴＰＰ関連の産地パワーアップ事業で行いますサラダタマネギ選果機の更新にあたって、１市２町がその作付面積に応じて一定の負担をするものでございます。

畜産業費の１，３４３万４，０００円の追加は、畜産クラスター事業として町内の畜産農家が実施します繁殖牛舎の建設に対する補助金です。

渇水被害恒久対策費におきます財源組替えは、町が管理するため池におきまして、揚水ポンプが故障した際、緊急を要したため予備費で修繕を行ってまいりました。この費用を渇水対策基金から充当するために予算を組み替えたというものでございます。

6 款商工費、芦北海浜総合公園管理運営費の財源組替えは、公園の長寿命化工事に起債を財源として充てることにしたものでございます。

7 款土木費の道路維持費におきます財源組替えは、起債を取りやめ一般財源で措置をするということにしたものでございます。

道路新設改良費 6 0 0 万 3, 0 0 0 円の追加につきましては、県道芦北坂本線の改良工事に対します負担金でございます。

8 款消防費の災害対策費におきます 7 0 9 万 1, 0 0 0 円の財源組替えは、熊本地震発生時の応急対策費用に対して、災害救助法の適用を受け、災害救助費負担金が交付される見込みとなったため、組み替えをするというものであります。

9 款教育費の図書館費におきます 1 0 万円については、指定寄附金を財源とした図書購入費でございます。

最後に、体育施設費 6 1 万円は、小田浦運動場周辺の樹木伐採に要する費用であります。以上が歳出です。

次は、歳入の御説明をいたしますので、1 0 ページにお戻りください。まず、地方交付税 1 7 7 万 5, 0 0 0 円の減額であります。2 8 年度の普通交付税の額が決定したことによる当初予算との差額を減額するものと、特別交付税の 1 2 月交付がありましたので、その追加をしたものであります。

1 3 款国庫支出金の民生費国庫補助金 4 7 0 万 5, 0 0 0 円のうち、3 7 0 万 5, 0 0 0 円は福祉施設が行います防犯カメラ設置に対する補助金、1 0 0 万円は N P O 法人が行います高齢者生きがい活動事業に要する備品購入に対する補助金であります。

1 4 款県支出金の民生費県負担金 7 0 9 万 1, 0 0 0 円は、熊本地震における災害救助法に基づく県負担金であります。

衛生費県補助金の 2 1 4 万 7, 0 0 0 円につきましては、海岸漂着物の処理対策に関する補助金であります。

農林水産業費県補助金 1, 3 4 3 万 4, 0 0 0 円は、牛舎の建設に係る補助金であります。

1 5 款財産収入の 1 億 1, 0 6 0 万 5, 0 0 0 円は、新幹線渇水対策基金とまちづくり振興基金の運用として、国債を購入しておりましたが、これを売却したことによる益金でございます。

1 6 款寄附金の 1 0 万円は、町出身の方から図書購入の指定寄附があったものでございます。

1 7 款繰入金 1 0 8 万 5, 0 0 0 円は、渇水対策ため池の揚水ポンプ修繕費用に渇水対策基金を財源とした充てるために繰り入れるものであります。

18款繰越金を飛ばしまして、21款の町債を先に説明したいと思います。商工債は、海浜公園の長寿命化工事に起債を充てる一方、起債全体額を調整するため土木債を減額し、差し引き920万円を起債として追加をしております。

以上が特定財源で、歳出との差が1億4,022万9,000円を前年度からの繰越金で充てるという財源構成にしております。

続いて、繰越明許費の補正について申し上げたいと思いますので、4ページをご覧ください。記載のとおりでありまして、年度内の完了が見込めない11件、総額3億1,320万3,000円を追加いたします。

次に、5ページの債務負担行為について説明しますが、芦北町設備投資資金利子補給に関するもので、限度額は31万8,000円、期間は29年度から33年度までであります。なお、14ページにその関連の調書を上げておりますので、御確認をいただければと思います。

次は6ページ、地方債につきましては先ほど申し上げたとおり、商工債を2,060万円追加し、土木債を1,140万円減額するものです。利率等は表のとおりでございます。また、起債の残高等の詳細につきましては、15ページに添付をしておりますのでご覧いただければと思います。

以上で説明を終わります、よろしくお願いいたします。

○議長（寺本修一君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。川尻君。

○12番（川尻成美君） 歳出のほうで、3款の民生費の中で、児童福祉費で子ども医療費が一般財源の中から316万5,000円ということは、要するに予想外の病気等があったのかということに、どんな意味なのかなということでお聞きします。

あと2点ありますけれども、4款の衛生費の中で海岸漂着物の手数料とか委託料があります。これは国・県の補助金の中から来ることによって、こういう措置がなされるんですけども、一般財源も財源として見込まれておりますので、なぜ今の時期なのかということがありますので、繰越にもありますので予算が付かなかったのか、今の時期に付いたのかという形で考えておりますので、どうなのかというのがあります。

また、農業振興費の中で産地パワーアップ事業負担金というのがありますけれども、これをちょっともっと詳しく、一般財源でされるものですから、よろしくお願いいたします。

○議長（寺本修一君） 櫻井福祉課長。

○福祉課長（櫻井優一君） 子ども医療扶助費の補正について御説明いたします。子ども医療費につきましては、平成27年度から28年度にみますと、対象受給者自体

は減少しております。平成27年度は2,437人から、28年度は2,381名、2.3%の対象者の減となっておりますが、1人当たりが受診する回数ですね、これが4.7%伸びてきたということで補正をお願いしたということであります。人数は減っておりますが、受診の回数が27年度が2万8,371件、延べでございますが、これが2万9,691件に伸びてきたということで補正をお願いした次第でございます。以上であります。

○議長（寺本修一君） 一丸住民生活課長。

○住民生活課長（一丸喜八郎君） 海岸漂着物の回収業務等の分ですけれども、平成29年度の国の経済対策で29年度でだいたいやるようになっていきますけど、28年度の経済対策で前倒しということで、今度の補正に挙げさせていただきました。ですから、後で明許繰越に全部なっております、ですから29年度については当初予算では挙がってこないということになります。以上です。

○議長（寺本修一君） 藤井農林水産課長。

○農林水産課長（藤井哲郎君） 産地パワーアップ事業の負担金の372万4,000円について御説明いたします。現在、JAあしきたが所有いたします選果機につきましては、平成6年度に導入を行っております。その後、22年が経過いたしました、その処理能力の不足とメンテナンスのコスト負担が大きな課題となっております。JAあしきたにおかれましてはですね、3年ほど前から補助事業を活用し、整備できないかという検討がなされてされました。今回、29年度の当初予算で計上する方向でございましたが、当初予算の確保が不透明であること、それからTPP対策の一環としてですね、28年度の事業として前倒しを実施するものでございます。スケジュールにつきましてはですね、繰り越しもございますけれども、3月中に入札、それら4月から6月につきましては、現在の選果機を利用しますので、9月までには新規の選果機を導入・設置する予定でございます。

負担割合の根拠につきましては、作付面積で行っております。平成6年度導入のときも作付面積で行っておりますので、これを引用したものでございます。水俣市が作付面積でいきますと76%、1,768万9,000円、津奈木町が8%の186万2,000円、芦北町が16%の372万4,000円の負担割となっておりますので、今回、この負担額を計上させていただきました。以上でございます。

○議長（寺本修一君） ほかに質疑はありませんか。川尻君。

○12番（川尻成美君） その児童のほうの受診、病院にかかるのが多くなったということで、病名とかそういうのは分からないんですか。なぜそんな多くなったのか、原因とかがあると思うんですけど、そこまでは把握していないということですか。

○議長（寺本修一君） 櫻井福祉課長。

○福祉課長（櫻井優一君） 具体的な病名とかまでは把握はしておりませんが、入院と入院外で見ますと、入院については減少傾向にはございます。ただ、入院以外の通院ですね、1人当たりの回数が、それが伸びたということが一番の要因というふうには分析はしております。

○議長（寺本修一君） ほかに質疑はありませんか。寺本君。

○4番（寺本順一君） ふるさと応援寄附金の基金についてお尋ねしたいと思います。
4,000万円ほどの積立金をご用意されてございますけれども、この制度ができたのはもう既に10年内ぐらいだろうと思っております。関連して、今回の議会に条例の制定もあるようでございますけれども、詳しい説明をよかったら一つ聞かせていただきたいと思います。

○議長（寺本修一君） 寺本議員。条例のことですか。

○4番（寺本順一君） いや、全般的なことですね。ふるさと納税をなぜ、今、基金をするようになったのか。

○議長（寺本修一君） 柳田企画財政課長。

○企画財政課長（柳田豊彦君） そのことについては、条例の御説明の中でしようと思っておりますけれども、ふるさと寄附金の取扱いについてはですね、寄附者が例えば子育て支援にお願いしますとか、地域づくりでお願いしますとかというような形で、希望を取ることができます。ところが、それを執行するに当たって、決算に充当をするだけでは、それがはっきり分からないということがありますので、一旦基金に入れて、その基金の中から子育てなら子育ての部分にいくら充当しましたというようなことがはっきり分かるようにしてですね、寄附者の疑念を除くといえますか、明確な使途を公表をするというのが一義的な目的で基金を設置するというところでございます。

○議長（寺本修一君） 寺本順一君。

○4番（寺本順一君） 寄附者の意向を反映させるというような解釈でよろしいのでしょうか。はい、了解。

○議長（寺本修一君） ほかに質疑はありませんか。坂本君。

○2番（坂本 登君） 高齢者福祉費の地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金、これは防犯カメラの設置という説明でありました。福祉施設は町にはたくさんありますので、全部なのか。また、神奈川で悲惨な事件がありましたが、その絡みなのか。ちょっともう少し詳しく、設置が全部なのか、そのへんを詳しく教えてください。

○議長（寺本修一君） 一丸住民生活課長。

○住民生活課長（一丸喜八郎君） 今言われたことについては、北海道ですかね、そう

いう事件があった部分で、今度の国の経済対策でやるものです。これは6施設の予定でございます、交付基準額については、事業費の低いほうの2分の1を補助するという形になっております。具体的な施設につきましては、特別養護老人ホームの五松園ですね、それからグループホーム慈愛、それから養護老人ホームの友隣、特別養護老人ホームの田の浦荘、グループホームたのうらそう1・2、それからグループホームつわぶきとなっております。以上です。

○議長（寺本修一君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 討論なしと認めます。

これから議案第2号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第2号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

第5 議案第3号 平成28年度芦北町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）

○議長（寺本修一君） 日程第5、議案第3号「平成28年度芦北町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）」を議題とします。

本案について説明を求めます。一丸住民生活課長。

○住民生活課長（一丸喜八郎君） 議案第3号、平成28年度芦北町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）について御説明いたします。

第1条で事業勘定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ6,700万8,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を37億5,275万3,000円とするものです。また、第2条で直営診療施設勘定の債務負担行為を計上しております。

それでは、事業勘定の歳出から御説明いたします。予算書の9ページをお開きください。款2保険給付費の1,700万8,000円は、一般被保険者高額療養費の実績見込みによる増額でございます。

次の款10基金積立金5,000万円は、今年度の決算余剰金が大きく見込まれることから、後年度の医療事業や保険税収入の減少等に備えるために、国民健康保険財政調整基金に積み立てるものです。

次に、歳入につきましては、8ページをお願いします。款3国庫支出金の国民健

康保険災害臨時特例補助金 2,000 円は、熊本地震により被災した被保険者の医療保険給付の一部負担金免除に伴う特例補助金として受け入れるものでございます。

次の款 10 繰越金 6,700 万 6,000 円は、前年度繰越金を補正財源とするものであります。

次に、債務負担行為について御説明します。4 ページをお願いいたします。第 2 表の患者輸送車運転業務委託料につきましては、平成 29 年 4 月から患者の送迎を計画しておりますので、その準備を行うため、債務負担行為を設定するものです。期間は、平成 29 年度から平成 33 年度までの 5 年間を設定し、限度額を 815 万 5,000 円としております。なお、10 ページにその調書を添付しております。

以上で説明を終わります。

○議長（寺本修一君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 討論なしと認めます。

これから議案第 3 号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第 3 号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

第 6 議案第 4 号 平成 28 年度芦北町介護保険事業特別会計補正予算（第 4 号）

○議長（寺本修一君） 日程第 6、議案第 4 号「平成 28 年度芦北町介護保険事業特別会計補正予算（第 4 号）」を議題とします。

本案について説明を求めます。一丸住民生活課長。

○住民生活課長（一丸喜八郎君） 議案第 4 号、平成 28 年度芦北町介護保険事業特別会計補正予算（第 4 号）について御説明いたします。

予算の総額に歳入歳出それぞれ 531 万 5,000 円を追加し、歳入歳出予算の総額を 23 億 1,524 万 6,000 円とするものです。

それでは、歳出から御説明いたします。7 ページをお開きください。款 2 保険給付費の目 3 地域密着型介護サービス給付費 366 万 8,000 円は、平成 28 年度から 18 人以下の通所サービス事業所が地域密着型サービスに移行したことにより

まして、実績見込みによる増額でございます。

次の目9 居宅介護サービス計画給付費94万7,000円は、居宅介護サービスの利用者の増加に伴う実績見込みによる増額でございます。

次の項2目6 介護予防住宅改修費70万円につきましても、実績見込みによる増額をお願いしております。

次に、歳入につきましては、6ページをお願いいたします。款7 繰越金531万5,000円は、前年度繰越金を補正財源とするものでございます。

以上で説明を終わります。

○議長（寺本修一君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 討論なしと認めます。

これから議案第4号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第4号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

第7 平成29年度施政方針と予算大綱説明

○議長（寺本修一君） 日程第7「平成29年度施政方針と予算大綱説明」を求めます。
竹崎町長。

○町長（竹崎一成君） おはようございます。本日、平成29年第2回芦北町議会定例会の招集を申し上げましたところ、議員各位におかれましては大変お忙しい中、御出席を賜り誠にありがとうございます。本定例会の開催に当たり、町政運営の基本的な考え方と予算の大綱について御説明申し上げます。

さて、国においては、平成29年度は地方が一億総活躍社会の実現や地方創生、公共施設等の適正管理等に取り組みつつ、安定的な財政運営に必要となる一般財源総額について、平成28年度地方財政計画の水準を下回らないよう実質的に同水準を確保することを基本として地方財政対策を講じることとされました。

本町におきましても、第二次芦北町総合計画の目標と将来像である「個性輝き活力と魅力にあふれた、安全・安心を実感できる町」の創造に向けて、また芦北町総

合戦略では、評価委員会の意見を伺いながら施策の効果を検証し、新たな課題に対する有効な施策は積極的に取り入れ、改善するところは改善しながら、予算と事業の「選択と集中」により、施策の展開を図ってまいります。

まず、予算編成、規模について申し上げます。第二次総合計画の基本理念の下、まちづくりの五つの目標を設定し、さらに芦北町総合戦略の目標の実現に向けて、健全で持続可能な財政運営を基本に、積極的な事業展開を図ることとしました。その結果、平成29年度一般会計予算総額は97億5,200万円となりました。

歳入の主なものについて申し上げます。

町税につきましては、女島と矢城の一部のメガソーラーに対する償却資産の特例規定期間が終了したことにより、固定資産税につきましては大幅な増収が見込まれるものの、町内の主要事業所に依然として力強さがなく、厳しい状況の中、総額16億1,511万4,000円を計上しました。

地方交付税につきましては、36億7,800万円を見込み、国庫支出金につきましては9億7,174万8,000円の計上となっております。

繰入金は、普通交付税の合併算定替の特例措置の減額に対応するため、まちづくり振興基金の繰入れをはじめとして、総額5億5,487万1,000円を措置しました。

町債は、臨時財政対策債や過疎対策事業債10億2,300万円を措置しております。

歳出につきましては、人件費が職員数の減により、職員給、共済組合や退職手当組合の負担金等の減によりまして3,379万円減の19億1,627万9,000円となっております。

扶助費につきましては、16億194万7,000円を措置いたしました。

投資的経費につきましては、地域や住民の課題・要望に効率的に対応すべく、精査と検討を加え、前年度から8,463万6,000円増の、総額11億6,682万5,000円を措置いたしました。

以下、平成29年度当初予算に盛り込みました主な施策について第二次総合計画に定めました五つの柱ごとに概要を説明申し上げます。

第1は、「地域活力と雇用を生み出す産業づくり」についてであります。

本町の基幹産業である農林漁業は、産業構造や生活様式の変化、輸入産物との競合、従事者の高齢化や担い手不足などから、農業では経営基盤の維持が困難な地域も少なくなく、林業では適正な林業施業ができない状態が続く、漁業では漁獲量の減少や魚価の低迷など、経営環境は厳しい状況が続いています。

このような中であって、本町農林漁業の現状を適確に把握し、「未来につなげる

芦北町農林漁業振興基本条例」の理念を具現化する施策を展開してまいります。

まず、土地利用型農業につきましては、経営面積の小さい中山間地域における農地利用集積の推進を図るため、地域営農プランの作成など、地域農業の活性化に向けた取り組みへの支援を継続するとともに、農業委員会におきましても、担い手への農地集積・集約化、耕作放棄地の発生防止・解消、新規農業算入の促進など、農地利用の最適化に向けた活動に積極的に取り組むこととしております。

また、高齢化する農業従事者対策として、農作物の品質と生産量を維持することを目的に、農作業委託に対する支援を行い、労働力の確保、農産物の生産性の維持を図ってまいります。

多面的機能の維持・確保につきましては、中山間地域等直接支払事業及び多面的機能支払事業の推進を行うとともに、地域活動組織に対し支援してまいります。

果樹振興につきましては、補助要綱の見直しによる体系の一本化を図るとともに、優良品種の苗木導入や、果実の鮮度保持のための資材購入や、ハウス施設等に対する支援を継続してまいります。

畜産業につきましては、引き続き繁殖用優良品種系統の素牛導入、自家保留牛、あしきた産肉専用子牛の導入に対する支援を行い、あしきた牛のブランド化と畜産業の担い手育成に取り組んでまいります。

鳥獣被害対策や耕作放棄地解消対策につきましては、ハード・ソフトの両面から積極的に取り組んでまいります。有害鳥獣による農地への被害の軽減を図るため、防護柵設置に対する補助の上限を撤廃し、設置化の推進を図ってまいります。

農業農村整備関係につきましては、第3期中山間地域総合整備事業で芦北宮浦地区の基盤整備を推進してまいります。

農道及び用排水路の維持補修につきましては、町単独の補助金を措置し、引き続き住民の要望に応じてまいります。

また、九州新幹線、南九州西回り自動車道の工事による洪水被害対策につきましては、安定した用水を供給するため、受益者と連携を図りながら維持管理に努めてまいります。

林業の振興につきましては、活用期に達した森林の伐採や搬出作業に伴う支援を引き続き行うとともに、皆伐後の跡地荒廃を防ぐため、植林や下刈り作業に対する支援を引き続き行ってまいります。また、新たに木育事業に取り組み、1歳児を対象に町産材で作ったおもちゃを贈呈することで、木のぬくもりに触れる機会を提供し、将来的な木材需要拡大を目指します。さらに、本町独自の木造住宅建築支援事業や林道・作業路舗装事業などの施策も継続してまいります。

漁業の振興につきましては、漁業者の負担軽減策として漁船保険事業や船揚げ施

設利用に対する支援を継続してまいります。また、水産資源の活用や地域の活性化を目的として、平成29年4月にオープンする水産物直売施設の運営支援を積極的に図ってまいります。さらに、新たな町の特産品化を目指して海産物・内水面資源の掘り起こしを行い、安全・安心・良質な特産品の開発に取り組んでまいります。

漁港整備につきましては、田浦漁港の施設延命化を図るため、機能保全工事を継続してまいります。また、井牟田漁港につきましては、海岸背後地の住宅を高潮・高波から防護するため、消波ブロックの設置を進めてまいります。

商工業の振興につきましては、創業等店舗整備支援事業補助金、設備投資資金利子補給補助金、特産品等開発支援事業補助金を引き続き措置いたしました。

町内における消費喚起等を目的に、プレミアム付商品券発行補助金を引き続き措置し、消費者支援と商工業者の育成・強化を図ってまいります。また、県や関係機関等と連携しながら、継続的に企業訪問や誘致活動に取り組んでまいります。

本町の地域資源を生かした特産品事業として、御立岬温泉塩を活用した商品化に継続して取り組むとともに、販路開拓を図ってまいります。

観光振興につきましては、町の観光PR等に引き続き取り組むとともに、新たに八代市・氷川町・芦北町定住自立圏形成協定に基づき、観光ネットワークの連携強化等による具体的事業に取り組んでまいります。

観光イベントにつきましては、御立岬ビーチサッカークフェスティバルやビーチバレーinくまもと大会、芦北うたせマラソン大会などを引き続き開催し、交流人口の増加を図ってまいります。

芦北海浜総合公園につきましては、公営施設長寿命化対策支援事業を計画に基づき施工し、公園利用者の安全確保と適正な管理運営に努めてまいります。

御立岬公園、温泉センター及び物産館につきましては、計画的な施設の維持修繕を行い、利用環境の改善や適正な施設運営に努めます。

町内の産業振興と地方創生の財源確保に向け、町内企業等と連携した返礼品の魅力向上やPR強化を図り、ふるさと応援寄附金制度の充実を進めてまいります。また、使途の明確化を図るため、基金を設置し、寄附者に対する説明責任に努めてまいります。

第2に、「地域で守り育てるまちづくり」についてであります。

まず、健康づくり推進計画につきましては、これまでの取り組みを推進計画作業部会において検証し評価を行い、第3期芦北町健康づくり推進計画を策定いたします。また、引き続き生活習慣病の発症予防、重症化予防の取り組みを推進してまいります。

さらに、新たな取組として、親子の生活習慣病健診を実施し、子どもの頃からの

生活習慣病予防に取り組むとともに、働く世代へ向けてのこころの健康についての知識の普及・啓発等を目的に健康教室を開催いたします。

女島活力センターの環境学習公園は、センターと一体で水俣病の情報発信と地域のもやい直し・環境学習等の活動拠点として利用の促進を図ってまいります。

また、水俣病発生地域高齢者等在宅支援事業により、水俣病被害者や地域の一般高齢者の方々が地域の中で安心して在宅生活を営むことができるよう今後も引き続き取り組んでまいります。

高齢者福祉につきましては、第6期芦北町老人保健福祉計画、介護保険事業計画に基づき、高齢者が住み慣れた地域で生き生きと安心して暮らせるよう支援してまいります。また、災害時避難行動要支援者の個別計画を区長等の避難支援関係者へ情報提供を行い、支援体制の強化を図ってまいります。

障害者福祉につきましては、第4期芦北町障がい福祉計画、第3期芦北町障がい者プランに基づき、障がい者の心身の状況やニーズに配慮したサービスの提供に努めてまいります。また、障がい理解促進事業を引き続き開催し、障がいに対する理解の促進及び障がい者が主体的に社会参加できる機運を醸成してまいります。

地域福祉活動の推進につきましては、第3次芦北町地域福祉計画に基づき、地域における福祉サービスの適切な利用の推進を図るとともに、定住自立圏協定に基づき消費生活相談を行うなど、圏域内における消費者被害の早期解決や未然防止に努めてまいります。

児童福祉につきましては、引き続き18歳までの子ども医療費の一部負担金を無料化し、子育て世帯の負担軽減化を図るとともに、子ども・子育て支援事業計画に基づいた事業に取り組み、保護者が安心して子育てができる環境の整備に努めてまいります。

第3に、「郷土の未来を育む人づくり」についてであります。

古きを学び知り、生きる力を培い、新しきを創る、という芦北町教育理念「温故創新」のもと、徳育を根底に論語の素読の継続的な取組や、武道（空手道）の指導を通して、子どもたちの礼節を重んじる心と態度の醸成につなげてまいります。

学校教育における学習環境の整備・充実につきましては、校務用パソコンの更新を行い、液晶テレビ型電子黒板等のICT機器の効果的な活用を図るとともに、魅力ある授業の実施に取り組み、効率的な学習を行うことで、児童・生徒の学力向上を図ってまいります。特に英語力の向上につきましては、小学校における教科化に向けてALTの活用の見直しを行い、更なる指導体制の強化の検証に取り組んでまいります。

また、いじめ・不登校問題等に対処するため、引き続き不登校対策支援員や心の

教室相談員を配置し、その防止と解消に取り組んでまいります。さらに、特別支援教育においても、増加傾向にある“気になる児童・生徒”に対して支援員を配置し、きめ細やかな指導を行ってまいります。

施設の管理につきましては、校舎等の計画的な維持修繕を行ってまいります。

幼稚園の運営につきましては、小・中学校等との連携・交流、体験活動を通じて、たくましく、心豊かな園児となるよう取り組んでまいります。

学校給食につきましては、施設の適正な維持管理、衛生的な学校給食センターの運営を行い、安全・安心な給食を安定して提供するとともに、個々に応じたアレルギー対応の給食と地産地消にも積極的に取り組んでまいります。

芦北高校の入学者確保と高校の魅力向上に資するため、平成28年度から実施しました芦北高校総合支援事業は成果を上げつつある中で、引き続き措置いたしました。学校、同窓会、行政が一体となって生徒確保に向けて取組を進めてまいります。

次に、スポーツの振興につきましては、社会体育クラブや総合型地域スポーツクラブ等の支援及び全国大会出場者等に補助金を交付し、競技力の向上と生涯スポーツの振興を図るとともに、グラウンド・ゴルフなどの交流イベント事業を開催し、各体育施設の利用促進・連携及び交流人口の増加を図ってまいります。また、新たな取組としまして、町民総合センターが開館20周年を迎えるため、「記念イベント」を開催いたします。また、古石みどりの里におきまして2020年東京オリンピックで新種目となったスポーツクライミングの一種であります「ボルダリング教室」を開催します。

生涯学習の推進につきましては、町民講座や平成生き生き大学等を開催し、参加者の自己研鑽と学習環境の整備に努めてまいります。

また、心豊かな子どもたちを育む学習の場を提供するために、子ども体験学習事業、演奏家派遣事業などを開催するとともに、地域ボランティアの協力をいただき、放課後の安全で健やかな活動場所として放課後子ども教室事業を継続してまいります。

文化振興につきましては、佐敷城跡観月会や文化祭を引き続き行い、町民の文化意識を高めるとともに、第59回九州地区民俗芸能大会を誘致し、伝統文化の交流を図ります。また、全国大会出場者等に文化振興事業補助金を交付するなど、文化活動に意欲的に取り組んでいる方々を支援してまいります。

文化財の保存・調査につきましては、佐敷城跡をはじめとした町内文化財の適正な保存管理に努めるとともに、八代・芦北地域の七夕綱に関し、八代市と連携しながら総合的な調査を継続して行います。

新芦北町誌編さんにつきましては、平成33年度刊行に向けて、編さん委員会を

設立し、資料の収集や記録などに取り掛かります。

芦北町立図書館につきましては、現状と町民ニーズを踏まえ、より多くの方々に利用していただくため、新たな整備に向けて基本構想を策定してまいります。

星野富弘美術館は、作品の展覧会や公募展を引き続き開催し、文化・芸術事業の充実に努めるとともに、姉妹館である群馬県富弘美術館と連携して、心の教育の推進に向けた取り組みを行います。

次に、国際交流の推進につきましては、国際交流員による英国文化を中心とした異文化体験事業をはじめ、芦北町国際交流協会と連携し、国際交流まつりなどのイベントや各種事業を実施してまいります。また、カンボジアに学校を贈る運動に代表される国際協力、貢献事業を促進してまいります。

英国派遣事業につきましては、引き続き中学生・高校生を派遣することとし、更なる国際化の推進力となる人材育成を図ってまいります。

第4に、「暮らしを支える基盤づくり」についてであります。

まず、交通ネットワークの整備につきましては、主要事業として位置付ける町道射場芦北線改良事業の本体工事を引き続き実施し、芦北インターチェンジから国道3号に通じる県道及び町道のアクセスを改善し、児童・生徒等の安全な通学路を確保するとともに、芦北町民総合センターへの避難道路としての整備を図ってまいります。

また、80橋の橋梁点検を引き続き実施するとともに、新たに社会資本整備総合交付金を活用して、6橋の橋梁補修に向けた詳細設計を行います。その他の町道につきましても計画的な改良と維持補修を行い、安全確保に努めてまいります。

県道関係につきましては、改良工事等に係る負担金を措置するとともに、引き続き県に対し、球磨田浦線等の未改良区間の早期実施を要望してまいります。

公共交通機関の維持・確保につきましては、路線バス維持対策とともに、ふれあいツクールバスにより町民の移動手段の確保に努めてまいります。

また、山間部を中心とする交通空白地帯に対応するため、乗合制による実証運行の手続きを進め、10月からの運行開始を目指します。さらに、町内交通網の俯瞰的な見直しに向けた交通計画策定に取り組んでまいります。

安全・安心なまちづくりににつきましては、災害に強いまちづくりを推進するため、常備消防の支援を行うほか、積載車及び小型動力ポンプ等の充実に努めてまいります。

災害対策につきましては、熊本地震を踏まえ、新規事業として地震に対する木造住宅の安全性を確保することを目的とした住宅耐震化促進事業に取り組んでまいります。

自主防災組織につきましては、平成２８年度に３組織増え、４０組織となり、組織率は８３．３％まで向上しました。このように地域内における自助・共助の意識は着実に高まっていますが、引き続き自主防災組織の新規設立や運営のサポートを行うとともに連携をさらに深め、災害対応に当たってまいります。

地域防災計画につきましては、総合的に見直しを行っており、災害に強い体制を整えてまいります。また、災害時の予防的避難を促すための早めの情報提供や避難所開設も引き続き実施してまいります。

水防対策につきましては、２地区の雨水排水対策詳細設計を行います。

防犯体制につきましては、子どもや女性などが被害者となる凶悪事件が全国各地で発生しており、犯罪抑止のため防犯カメラを計画的に設置するとともに、防犯灯設置に対する助成を行い、安心・安全なまちづくりを進めてまいります。

次に、水供給対策につきましては、水道区域外の地域に対しての生活用水の確保を図るため、飲料水供給施設事業に取り組んでまいります。

生活排水対策につきましては、公共用水の水質汚濁の防止、衛生的な居住環境の改善を図るため、浄化槽設置の推進を図ってまいります。

ごみの減量化の推進につきましては、家庭における分別の徹底と生ごみ処理機購入やごみ集容器設置への補助を実施するとともに、資源ごみのリサイクルを推進してまいります。

また、町内全域において祝日もごみ収集業務を行い、利便性の向上を図ってまいります。

環境保全活動の推進につきましては、ごみの不法投棄撲滅に向け、環境衛生巡視員による巡回監視を強化し、看板設置や広報等を行うとともに、グリーンカーテンコンテスト等の取組により、環境意識の啓発に努めてまいります。

水俣病に関する事業につきましては、相談窓口を設置して各種相談に対応するとともに、もやい直し事業や水俣病に対する本町独自の情報発信事業である「うたせ船で水俣病を学ぶ講座」を引き続き実施いたします。

公営住宅の整備につきましては、計画的な補修・更新等を実施し、効率的かつ適正な維持管理に努めてまいります。

町内のＩＴインフラの充実を図るため、町内全域を網羅する光通信基盤整備事業に引き続き取り組み、田浦地域、湯浦地域の供用を開始いたします。

第５に、「住民と行政の協働のまちづくり」についてであります。

まちづくりの主役は「人」であり、地域づくりやスポーツ・文化、国際交流等に意欲的に活動するまちづくり団体を支援し、まちづくりを支える人材の育成を図るとともに、団体間の交流を促進させ、それにより創出される斬新なまちづくりに対

しても支援を行ってまいります。

次に、行・財政の運営につきましては、今後も効率的な行政組織の見直しと定員の適正化及び芦北町人材育成基本方針に基づき、職員の資質向上に努めてまいります。人事評価制度につきましても、引き続き職員の意識改革を促し、職場の活性化を図ってまいります。

公共施設の計画的な施設整備等の推進につきましては、公共施設等総合管理計画に基づき適正配置の実現に努めてまいります。また、利用計画のない町有地につきましても、宅地分譲や貸し付けなどにより有効活用を図ってまいります。

町の情報発信につきましては、引き続き広報あしきたやまちだより、ホームページなどを活用した情報提供に努めてまいります。

移住・定住対策につきましては、ポータルサイトの充実を図り、情報提供に努めてまいります。また、集落活動や産業活動の支援、移住等の促進を図るため、新たに地域おこし協力隊の導入を進めてまいります。

戸籍・住民基本台帳・年金等の窓口業務につきましては、特に接遇力を高めるとともに、個人情報の保護に留意しながら適正な事務処理に努め、サービス向上を図ってまいります。

また、社会保障・税番号制度（マイナンバー制度）につきましては、引き続き適切な運用に努めるとともに、利活用に向けた検討を進めてまいります。

次に、特別会計について申し上げます。

国民健康保険事業につきましては、36億4,000万円を措置しました。前年度に引き続き、保健センターと連携して芦北町国保健康づくり推進事業を実施し、重症化予防に取り組むとともに、国保財政の健全な運営に努めてまいります。また、平成30年度からの、財政運営責任等の都道府県化へのスムーズな移行に向けた準備を進めてまいります。

吉尾温泉診療所につきましては、2,900万円を措置しました。診療体制につきましては、患者輸送車両の導入により、患者の送迎を実施し、通院の利便性の確保と診療の効率化を図り、へき地支援機構と地元医療機関との連携による医師派遣を受け、週2回の診療を行ってまいります。

介護保険事業につきまして、22億5,200万円を措置しました。第6期介護保険事業計画に基づき、介護・医療等の支援を必要とする高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう努めてまいります。なお、介護保険事業計画につきましては、これまでの取組を検証し評価した上で、第7期介護保険事業計画を策定してまいります。また、適正な介護保険事業を運営するとともに、介護予防・日常生活支援総合事業の充実、地域包括ケアシステムの構築を図ってまいります。

農業集落排水事業につきましては、老朽化した設備の更新と安定した施設の運営を図るための維持管理費として２億２,１００万円を措置しました。

生活排水処理事業につきましては、快適で衛生的な居住環境の確保を図るため、維持管理費として５,７５０万円を措置しました。浄化槽からの放流水の状態に応じた効率的な管理を行い、引き続き経費削減に努めてまいります。

町有温泉事業につきましては、１億２００万円を措置しました。各施設につきましては、おもてなしの接客と入浴者の利用環境の改善に努めるとともに、安全・安心な施設運営に努めてまいります。また、大野温泉センターにつきましては、指定管理者と連携し、利用環境を向上することで増客につながるよう支援してまいります。

奨学資金貸付事業につきましては、３,４００万円を措置しました。

また、後期高齢者医療事業につきましては、２億６,８６０万円を措置しました。健康診査委託事業や人間ドック健診補助を実施し、被保険者の健康保持増進を図るとともに、疾病の早期発見と重症化の防止に努めてまいります。

公営企業会計がある水道事業につきましては、２億９,９００万円を措置しました。安全・安心な水道水の供給のため、安定した経営を行うとともに、計画的に老朽化した施設の更新を図ってまいります。

以上、一般会計、特別会計及び水道事業会計を合わせた平成２９年度の予算総額は１６６億５,５１０万円となっております。

結びに、「いい町をつくるため、他に誇れる町をつくるため」、そして何よりまちづくりの基本理念であります「すべては次代を担う子どもたちのために」百般の政策・事業を展開し、「品格ある安全・安心のまちづくり」に勇往邁進する所存です。

健全財政を維持する中で、ダイナミックな事業展開を図るため、皆さんと共に知恵を出し合って、より良いまちづくりを一層進めてまいりたいと思います。

議会並びに町民の皆様の御理解と御協力を心からお願い申し上げます。

○議長（寺本修一君） 町長の説明が終わりました。

ここで暫時休憩します。１１時１５分から再開します。

—————○—————

休憩 午前１１時０２分

再開 午前１１時１５分

—————○—————

○議長（寺本修一君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

—————○—————

第 ８ 議案第 ５号 平成２９年度芦北町一般会計予算

- 第 9 議案第 6 号 平成 29 年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算
第 10 議案第 7 号 平成 29 年度芦北町介護保険事業特別会計予算
第 11 議案第 8 号 平成 29 年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算
第 12 議案第 9 号 平成 29 年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算
第 13 議案第 10 号 平成 29 年度芦北町有温泉事業特別会計予算
第 14 議案第 11 号 平成 29 年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算
第 15 議案第 12 号 平成 29 年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算
第 16 議案第 13 号 平成 29 年度芦北町水道事業会計予算

○議長（寺本修一君） これから日程第 8、議案第 5 号「平成 29 年度芦北町一般会計予算」から日程第 16、議案第 13 号「平成 29 年度芦北町水道事業会計予算」は、議会運営委員会の答申に基づき、会議規則第 36 条の規定により一括議題とします。

ただいま一括議題としました議案については、先ほどの日程第 7「平成 29 年度施政方針と予算大綱説明」で町長の説明もあり、先の議会運営委員会において委員会付託としてする旨の答申がっておりますので、会議規則第 38 条第 2 項の規定により、提案理由の説明を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。

したがって、一括議題の議案は提案理由の説明を省略することに決定しました。

これから一括議題の質疑を行います。

先の議会運営委員会において、委員会付託の答申がっておりますので、質疑はあくまでも総括的かつ大綱にとどめるよう求めます。

質疑はありませんか。川尻君。

○12番（川尻成美君） 施政方針の中でですね、9 ページになりますけれども、移住・定住策に対して新たな地域おこし協力隊の導入を進めるということで、小耳に挟んではおりますけれども、先例としてほかのところもやっているところも聞き及んでおりますが、芦北町として新たに新規でこういう協力隊を導入するに当たってのですね、大綱的なことで、どういう方法でやるということをお聞かせいただければ、所管外ですもんですから聞きたいかなと思います。

○議長（寺本修一君） 柳田企画財政課長。

○企画財政課長（柳田豊彦君） それでは、お答えいたします。

そもそも地域おこし協力隊というのはどういうものかということから御説明をしたいと思います。これは移住・定住の促進と、その地域の課題解決を図ることを目的といたしまして、平成 21 年度に都市部から人材を受け入れて、地域活動を行う地域おこし協力隊制度というのが総務省所管で設立されたという経緯でございます。

して、その隊員は都市地域から過疎地域等に住民票を異動して、都市部から芦北町に住民票を異動して、生活の拠点を移していただいた上で芦北町が求める活動に従事してもらうというようなことで、芦北町が委嘱をするということになります。活動期間は1年から概ね3年以内という縛りがございまして、3年以後も定着してもらえばというような、これにも載っておりますが、具体的な活動といたしましては、今回、募集人員は3名程度を予定をしておりますけれども、地域づくり団体と連携をして、地域の課題解決でありますとか、地域資源を活用した特産品づくり等に当たっていただくということにしておりますし、例えばふるさと納税制度の充実にあたるような業務にも取り組んでいただこうかなというようなことで思っております。この議決をいただいた後に募集に早速かかりまして、29年度の7月とか8月等にその夏場頃には決定をしていただいて、活動に入ってもらうというふうなスケジュールを組んどるところでございます。よろしくお願いします。

○議長（寺本修一君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） これで質疑を終わります。

お諮りします。ただいま議題となっております日程第8、議案第5号から日程第16、議案第13号までは、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。

したがって、議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託することに決定しました。

各常任委員会におかれましては、慎重な審査をされ、その結果を最終日の本会議において、各常任委員長から報告願います。

—————○—————

第17 議案第14号 芦北町ふるさと応援寄附金基金条例の制定について

第18 議案第15号 芦北町使用料等審議会条例の制定について

第19 議案第16号 芦北町特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（寺本修一君） 日程第17、議案第14号「芦北町ふるさと応援寄附金基金条例の制定について」及び日程第18、議案第15号「芦北町使用料等審議会条例の制定について」、日程第19、議案第16号「芦北町特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について」は、条例制定に関する一部改正で関連しますので、議会運営委員会において一括議題とし、委

員会付託する旨の答申があつておりますので、会議規則第36条の規定により一括議題とします。

お諮りします。ただいま議題となっております日程第17、議案第14号から日程第19、議案第16号までは、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。

したがって、議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託することに決定しました。

各常任委員会におかれましては、慎重な審査をされ、その結果を最終日の本会議において、各常任委員長から報告願います。

—————○—————

第20 議案第17号 芦北町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（寺本修一君） 日程第20、議案第17号「芦北町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。山元総務課長。

○総務課長（山元信作君） 議案第17号、芦北町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について御説明申し上げます。

この条例案は、人事院勧告に基づき、一般職の職員の扶養手当額を改正するため、条例を改正するものです。

改正内容としては、民間企業における配偶者手当の支給状況や、国全体の少子化対策の推進を背景として、配偶者に係る手当額を1万3,000円から、父母等と同額の6,500円に減額し、子に係る手当額を6,500円から1万円に増額するものです。

附則として、この条例は平成29年4月1日から施行し、平成29年度に関しては配偶者の手当額を1万円、子の手当額を8,000円とする経過措置を規定しております。

なお、提案理由につきましては、記載のとおりでございます。

以上で、説明を終わります。

○議長（寺本修一君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 討論なしと認めます。

これから議案第１７号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第１７号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

第２１ 議案第１８号 芦北町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

第２２ 議案第１９号 芦北町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（寺本修一君） 日程第２１、議案第１８号「芦北町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について」及び日程第２２、議案第１９号「芦北町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について」は、議会運営委員会において一括議題とする旨の答申があつておりますので、会議規則第３６条の規定により一括議題とします。

本案について説明を求めます。山元総務課長。

○総務課長（山元信作君） 議案第１８号、芦北町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について及び議案第１９号、芦北町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について御説明申し上げます。

この条例案は、地方公務員の育児休業等に関する法律及び育児休業、介護休業等、育児または家族介護を行う労働者の福祉に関する法律の一部改正に伴い改正するものです。

この改正は、少子高齢化の進展に伴い、働き方改革が行われる中、育児や介護と仕事との両立支援の要請が高まっていることを背景として行われております。

議案第１８号の主な改正内容といたしましては、育児休業等の対象となる子の範囲の見直し、介護休暇の分割取得、介護時間の新設など、家族形態の変化や介護の状況に柔軟に対応できるよう必要な措置を講じるものです。

議案第１９号の主な改正内容といたしましては、非常勤職員の育児休業に係る規定及び部分休業に係る規定を追加するものです。

附則として、この条例は平成２９年４月１日から施行することとしています。

なお、提案理由につきましては、記載のとおりでございます。

以上で、説明を終わります。

○議長（寺本修一君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 質疑なしと認めます。

これから議案第 18 号、芦北町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 討論なしと認めます。

これから議案第 18 号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第 18 号は原案のとおり可決しました。

これから議案第 19 号、芦北町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 討論なしと認めます。

これから議案第 19 号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第 19 号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

第 23 議案第 20 号 芦北町税条例等の一部を改正する条例の制定について

○議長（寺本修一君） 日程第 23、議案第 20 号「芦北町税条例等の一部を改正する条例の制定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。楠原税務課長。

○税務課長（楠原清照君） 議案第 20 号、芦北町税条例等の一部を改正する条例の制定について御説明申し上げます。

今回の改正は、平成 28 年 6 月 7 日、特定非営利活動促進法の一部を改正する法律、また平成 28 年 11 月 28 日、社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための地方税法及び地方交付税法の一部を改正する法律等の一部を改正する法律の成立に伴い、関連する条例の改正を行うものです。

今回の改正は、2条編成としており、第1条は芦北町税条例の一部改正、第2条は平成28年6月議会定例会で専決処分の報告をし、御承認いただきました芦北町税条例等の一部を改正する条例の一部改正です。

第1条は2点ございます。1点目は文言の変更のみでございまして、議案の第1条3行目から6行目まで記載のとおりでございます。

また、2点目は住宅借入金等特別税額控除、いわゆる住宅ローンの個人住民税所得割額に係る税額控除に関するものであります。その10年間の控除期間を平成41年度までから平成43年度まで2年間延長するものです。

第2条は、主に消費税率引き上げ時期の変更に伴う改正です。主な改正内容は、法人町民税と軽自動車税関係です。法人町民税では、法人税割の税率を9.7%から6%に引き下げる改正の実施時期を、消費税が10%となる予定の平成31年10月1日に合わせ延期するものです。また、現在県税である自動車取得税は軽自動車分につきましては廃止され、新たに町税の軽自動車税環境性能割が追加されることとされていますが、この導入時期を平成31年10月1日に延期するものです。

附則としまして、施行期日、経過措置を規定しております。

以上で、説明を終わります。

○議長（寺本修一君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 討論なしと認めます。

これから議案第20号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第20号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

第24 議案第21号 芦北町国民健康保険直営診療所条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（寺本修一君） 日程第24、議案第21号「芦北町国民健康保険直営診療所条例の一部を改正する条例の制定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。一丸住民生活課長。

○住民生活課長（一丸喜八郎君） 議案第 2 1 号、芦北町国民健康保険直営診療所条例の一部を改正する条例の制定について御説明いたします。

この条例は、吉尾温泉診療所の使用料及び手数料について改正を行うもので、改正内容としましては、診療報酬及びこれまで条例に規定する別に定めるところとしていたものを、条例で整理したものです。

具体的には、第 8 条を改正し、第 1 項に厚生労働大臣が告示する診療報酬等に関するもの、第 2 項に別表第 2 として旧条例で別に定めていた使用料及び手数料等を明記し、第 3 項では前項に規定するもの以外の使用料及び手数料について、近隣等を参考にして町長が定める額として整理したものです。

附則として、この条例は公布の日から施行するものです。

提案理由につきましては、記載のとおりです。

以上で、説明を終わります。

○議長（寺本修一君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 討論なしと認めます。

これから議案第 2 1 号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第 2 1 号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

第 2 5 議案第 2 2 号 芦北町介護保険条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（寺本修一君） 日程第 2 5、議案第 2 2 号「芦北町介護保険条例の一部を改正する条例の制定について」を議題とします。

本案について説明を求めます。一丸住民生活課長。

○住民生活課長（一丸喜八郎君） 議案第 2 2 号、芦北町介護保険条例の一部を改正する条例の制定について御説明いたします。

本案は、介護保険法施行令の一部改正及び今年 4 月に予定されていた消費税増税延期による保険料額の改正に伴い、条例一部を改正するものです。

改正内容としましては、附則に「8」を追加し、新たに震災復興等に伴い、土地

等を譲渡した場合に生じる売却収入当に対する税法上の特別控除額を介護保険料の所得・・・である合計所得金額から控除できることとする改正と、消費税増税延期に伴い、軽減保険料を見直す改正となっております。

附則として、この条例は平成29年4月1日から施行するものです。

提案理由につきましては、記載のとおりです。

以上で、説明を終わります。

○議長（寺本修一君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 討論なしと認めます。

これから議案第22号を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第22号は原案のとおり可決しました。

—————○—————

○議長（寺本修一君） 以上で、本日の日程は全て終了しました。

本日はこれで散会します。

なお、平成29年度芦北町一般会計予算歳入の連合審査会につきましては、午後1時から議員控室で行います。

御苦労様でした。

—————○—————

散会 午前11時35分

平成29年第2回芦北町議会定例会議事日程（第2号）

平成29年3月16日

午前10時 開 議

於 議 場

1 議事日程

第1 一般質問

（散 会）

2 出席議員（16人）

1番 荒 川 知 章 君
3番 宮 内 道 則 君
5番 古 村 逸 男 君
7番 草 野 安 道 君
9番 元 山 秀 志 君
11番 平 松 洋 一 君
13番 藤 井 公 明 君
15番 水 口 宣 之 君

2番 坂 本 登 君
4番 寺 本 順 一 君
6番 白 坂 康 浩 君
8番 前 田 徹 一 君
10番 宮 尾 秀 行 君
12番 川 尻 成 美 君
14番 岡 部 恵美子 君
16番 寺 本 修 一 君

3 欠席議員（0人）

4 説明のため出席した者の職氏名（18人）

町 長	竹 崎 一 成 君	副 町 長	藤 崎 正 司 君
教育委員長	澁 谷 百 鍊 君	教 育 長	竹 浦 裕 道 君
総 務 課 長	山 元 信 作 君	企画財政課長	柳 田 豊 彦 君
税 務 課 長	楠 原 清 照 君	住民生活課長	一 丸 喜八郎 君
福 祉 課 長	櫻 井 優 一 君	農林水産課長	藤 井 哲 郎 君
商工観光課長	園 川 民 夫 君	建 設 課 長	下 田 研 君
上下水道課長	坂 道 征 一 君	会計管理者兼 会 計 室 長	井手口 浩 二 君
田浦基幹支所長	宮 石 幸 人 君	教 育 課 長	長 船 正 純 君
生涯学習課長	宮 下 祐 一 君	農 業 委 員 会 事 務 局 長	告 畑 一 彦 君

5 職務のため出席した事務局職員の職氏名（2人）

議会事務局長 岩 間 睦 生 君 次長(課長補佐) 佐 竹 貴 幸 君

平成 2 9 年第 2 回定例会一般質問通告表

質問 順番	質問者	質問事項	質問の要旨	質問の相手
1	宮内道則	1 有害鳥獣駆除について	本町では、農作物の鳥獣被害対策として、防護柵の設置及び新規免許取得者への取得費の助成並びに猟友会に対する駆除費等の助成を積極的に行い、有害鳥獣の駆除に努められている。 しかし、近年、有害鳥獣を駆除する狩猟従事者は、高齢化しており、今後の人材確保が必要であると思われるが、どのような対応を考えているか。	町 長
		2 通学路の安全確保について	① 各小学校の通学路について、危険箇所として認識されている箇所は何箇所あるか。 ② 通学路には、信号のある横断歩道と信号のない横断歩道があるが、それぞれ渡り方等について、学校ではどのような指導がなされているか。	教育長
		3 障害者差別解消法について	障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律が施行され、早 1 年が経とうとしているが、本町では町民に対しどのような啓発を行っているのか。	町 長
		4 認知症対策について	認知症は、高齢者だけではなく、近年では若年層でも発症が見られ、認知症患者を抱える家庭においては、大きな負担ともなりえるものである。 ① 認知症患者の治療費に対する助成はあるか。 ② 町内で認知症患者を受け入れる施設は何施設があるか。 また、それらの施設の受け入れ状況はどうなっているか。	町 長

2	坂本 登	1 公共施設等のトイレの改善について	熊本地震の教訓等を踏まえ、緊急時に避難所となる小・中学校、各種集会所、公民館等、また、一般介護予防事業の「たっしゃか会」などが開催されている各地区公民館のトイレの洋式化を推進する考えはないか。	町 長 及び 教育委員長
		2 就学援助制度の入学準備金の支払い時期について	現在、入学準備金は入学後に支払われているが、支給対象世帯にとって入学に要する経費の支払いは、概ね入学前の3月に発生している。 入学準備金を入学前支給に切り替える考えはないか。	教育委員長
		3 芦北町の財政の現状と福祉の向上について	① 平成27年度末で地方債現在高は、約100億円となっている。そのうち、臨時財政対策債など交付税措置される分を差し引いた地方債残高はいくらか。 ② 地方交付税が減少する中、高齢者は増加の一途をたどっているが、今後、高齢者・障がい者など生活弱者の暮らしや福祉の向上に対する施策をどう進めていく考えか。	町 長
3	川尻成美	1 「働き方改革」への対応について	① 政府は、「働き方改革」の計画策定等に向け「働き方改革実現会議」を設置し、現在まで8回の会議を重ね、総理大臣と現場との意見交換会も、昨年12月までに4回の協議を行っている。法制定までは、まだ時間はかかると思うが、本町行政改革の一つとして検討すべきと思うがどうか。	町 長

			② 町内企業との意見交換会等を開催する考えはないか。	
		2 人口減少対策について	本町において、人口減少対策は最優先課題であり、中でも移住・定住への対策は重要政策と考える。 ① 平成29年度新たに地域おこし協力隊の導入を進めるとあるが、具体的な事業内容はどのようなものか。 ② 地元に残る新卒者や、Uターン・Iターン者が住みやすい環境、いわゆる町づくりが不可欠であり、有識者や地元企業等と積極的かつスピーディな協議を行い、対応策を講じるべきではないか。	町 長
4	荒川知章	1 水俣・芦北地域振興計画に基づく芦北町の観光推進事業について	地域の特性を活かした地域拠点事業である「観光うたせ船」の利用状況はどうなっているか。また、今後の誘客対策をどう考えているか。	町 長 及び 担当課長
		2 水俣・芦北地域振興財団助成事業について	水俣・芦北地域振興財団助成事業におけるこれまでの町内の取組団体及び事業内容はどのようなものがあるか。また、平成29年度の町内の取組団体及び事業内容はどうか。	町 長 及び 担当課長
		3 芦北町の海浜レジャー及び観光振興について	① 南九州西回り自動車道の延伸により津奈木ICが開通したところであるが、田浦IC開通当時から現在まで、芦北海浜総合公園・御立岬公園など、海浜レジャー施設の来園者数や収支状況などにどのような変化があっているか。	町 長 及び 担当課長

			② 同施設に対する来場者を増やすための具体的な対策及び海浜レジャーや観光イベント等に来た町外の人に対する芦北町のアピール活動はどのように行っているか。	
		4 健康づくり推進事業の取組について	全国の市町村で健康ポイント制度を取り入れ、健康増進に取り組んでいる市町村がある。 芦北町もこの健康ポイント制度を取り入れ、町民の健康維持・増進を図り、町内で利用できるようにして、健康と町内の活性化を同時に図るという考えはないか。	町 長 及び 担当課長

開会 午前10時00分

-----○-----

○議長（寺本修一君） おはようございます。

直ちに本日の会議を開きます。

川尻議員から遅刻届が出ております。

本日の日程は、お手元に配付しております議事日程のとおりであります。

-----○-----

第1 一般質問

○議長（寺本修一君） 日程第1「一般質問」を行います。

質問通告者は4人です。通告書はお手元に配付しております。質問時間は、従来どおり補助質問を含めて30分以内に制限します。それから、一般質問は通告制であります。質問に関連して求める関連質問は許可しません。質問に当たっては、通告内容に基づいた質問をされるよう求めます。なお、執行部の答弁も明快かつ簡潔に願います。

それでは、順番に発言を許します。

はじめに、宮内君。

○3番（宮内道則君） おはようございます。

ただいま議長より一般質問のお許しをいただきましたので、今から一般質問を始めさせていただきます。

それでは、私は今回4つの質問をいたします。まず第1点は、有害鳥獣駆除についてであります。本町では農作物の鳥獣被害対策として防護柵の設置及び新規免許取得者の取得費の助成、並びに猟友会に対する駆除費等の助成を積極的に行っております。有害獣の捕獲は実績として毎年上がってきており、また本年度は町長の施政方針にありますように、有害鳥獣の農地への被害の軽減を図るために、防護柵設置による補助の上限を撤廃して、積極的に設置化の推進を図るとうたっておられ、誠に理に叶った施策であると思います。

そこで、町長にお尋ねをいたします。有害鳥獣を駆除する狩猟従事者は高齢化しており、今後の人材確保が必要であると思われるが、どのような対応を考えておられるのかお尋ねをいたします。

次の第2点は、通学路の安全確保についてであります。ピカピカですね、新一年生がいよいよ4月から入学して、上級生の人たちと一緒に登校いたしますが、その通学路の安全確保についてお尋ねいたします。①各小学校の通学路について、危険箇所として認識をされている箇所は何箇所あるのか。②通学路には信号のある横断歩道と信号のない横断歩道がありますが、それぞれ渡り方等について学校ではど

のような指導がなされているのかお尋ねをいたします。

次の第3点は、障害者差別解消法についてであります。障害者差別解消法が施行されまして早1年がたとうとしておりますが、本町では町民に対しどのような啓発を行っているのかお尋ねをいたします。

次の第4点は、認知症対策についてであります。認知症は現在誰でもがかかる病気でございます。高齢者だけがかかる病気ではなく、近年は若い方でも発症が見られ、今や家庭においても大変な負担となっております。このような中、本町ではまちづくりの指針である芦北町総合計画の基本計画に「人にやさしい快適なまちづくり」を掲げて、一人一人の全町民の健康づくりを推進しており、平成25年4月には芦北町健康づくり推進条例が施行され、きめ細かな福祉の施策を展開しております。そこで、町長にお尋ねをいたします。①認知症患者の治療費に対する助成はあるのか。②町内で認知症患者を受け入れる施設は何施設あるのか。また、これらの施設の受け入れ状況はどうなっているのかお尋ねをいたします。

以上で私の質問を終了いたしますが、答弁による再質問は自席から申し上げます。

○議長（寺本修一君） 宮内君の1回目の質問が終わりました。答弁を求めます。竹崎町長。

○町長（竹崎一成君） 宮内議員の御質問にお答えいたします。

まず、質問1の有害鳥獣駆除に関してでございますが、本町におきましては以前にも議会で申し上げたとおり、有害鳥獣被害防止対策協議会を立ち上げておりまして、各種対策に取り組んでおります。御質問の狩猟従事者の今後の人材確保につきましては、担当課長から答弁をさせます。

質問3につきましては、議員も先ほど発言されましたが、障害者差別解消法は平成28年4月1日に施行され、障害を理由として、正当な理由なくサービスの提供を拒否したり、制限したり、条件を付けたりするような行為を禁止するなど、障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現につながることを目的としております。具体的な計画の内容につきましては、これも担当課長から答弁をいたさせます。

続きまして、第4の認知症対策についてでございますが、内容は具体的でありますので、担当課長からこれも答弁させます。

○議長（寺本修一君） 竹浦教育長。

○教育長（竹浦裕道君） お答えいたします。

質問2の通学路の安全確保につきましては、事務的な質問かと存じますので、担当課長から答弁させます。

○議長（寺本修一君） 藤井農林水産課長。

○農林水産課長（藤井哲郎君） 有害鳥獣の駆除につきましてお答えいたします。鳥獣捕獲に中心的な役割を果たしている狩猟者は、御指摘のとおり、高齢化しており、捕獲の担い手の育成や確保が課題となっているということでございます。狩猟従事者の人材確保については、新規免許取得者へ取得費助成をはじめ、安全で効率的な罠免許取得者へも助成を行っており、今後も継続してまいります。また、狩猟免許の取得日と試験日等においても広報にて周知するとともに、新規就農者や認定農業者協議会あるいは将来就農するであろう芦北高校生にもですね、鳥獣被害や捕獲頭数など現状を説明する機会を設定できればと考えております。今後、芦北町有害鳥獣被害防止対策協議会の検討部会におきましても、人材確保について各地区の猟友会の意見を聴取し、芦北町鳥獣被害防止計画に反映できればと、このように思っております。以上です。

○議長（寺本修一君） 長船教育課長。

○教育課長（長船正純君） 質問２の①通学路の危険箇所につきましては、平成２８年度芦北町通学路安全推進会議を開催しました折に、各小学校から報告がありましたのが１６箇所でございます。

次に、質問２の②信号機のある横断歩道と信号機のない横断歩道の指導でございますが、基本的には信号機のある横断歩道を渡るように通学路の設定をしてあります。また、休日等、通学路以外の場所での道路横断時でも、国道など交通量の多いところでは信号機のある場所まで行って渡るよう指導しています。しかし、吉尾小学校、大野小学校、内野小学校の通学路には信号機が１基もございません。また、やむを得ず信号機のない場所を横断して通学する児童もいます。これらを踏まえて、各学校では芦北警察署、交通安全協会、校区内の交通指導員の方に御協力をいただきながら、模擬の信号機を使う形で交通教室を開催し、安全に通学できるよう努めております。渡り方につきましては、信号の確認はもとより、青になっても右・左・右の安全確認をして渡るよう指導しております。

○議長（寺本修一君） 櫻井福祉課長。

○福祉課長（櫻井優一君） 質問３につきまして、お答えいたします。

本町におきましては、ホームページへの掲載や啓発パンフレットを窓口に設置するとともに、身体障害者福祉連合会の研修会等でも、障害者差別解消法についての啓発を行っています。また、障がいのある人に対する差別は、誤解や偏見、無理解などによって起こっています。このような誤解や偏見をなくし、障がいのある人に対する正しい理解と認識を深めるため、町民を対象に平成２５年度から２７年度までは講演会やパネルディスカッションを開催し、平成２８年度は熊本県では初めてとなるスポーツレクリエーションのバリアフリーディスクゴルフ大会を開催し、障

がいのある人と交流を深めるなど、広く町民に啓発を行っています。なお、平成29年度も昨年に引き続きバリアフリーディスクゴルフ大会を開催し、障がいのある人への理解を深めるとともに、さらに広報紙等により啓発に努めてまいります。以上です。

○議長（寺本修一君） 一丸住民生活課長。

○住民生活課長（一丸喜八郎君） おはようございます。

質問4の①の認知症治療に対する助成制度につきましては、現在のところ、ありません。

それと、②の認知症患者の受け入れ施設につきましては、グループホームが10施設、90人の受け入れ定員となっております。それと、今年4月から1施設で通所サービス3名の受け入れも始まる予定でございます。現在の状況は、各施設には空きがない状況でございます。また、入所希望の方については、今、23名となっております。以上でございます。

○議長（寺本修一君） 宮内君。

○3番（宮内道則君） ありがとうございます。

ただいま御説明いただきまして、各1番から4番までですね、順次御質問をいたしたいと思っております。

有害鳥獣駆除についてでございますが、ただいま課長のほうから縷々説明がありましたように、町当局におかれましては、あらゆる手段を使って各種対策にですね、取り組んでおられます。大変結構なことであると思います。今後、農林業者が安心して作物を作り、また林業の方が植林等できるようお願い申し上げまして、有害鳥獣駆除については質問は終わります。

次の2番目の通学路の安全確保についてでございますが、ただいま危険箇所は16箇所ということでお聞きをいたしました。この危険箇所の対応についてですね、どのようなことを認識しておられるか、簡単に結構ですので、お尋ねをいたします。

また、②の管内の通学路においてですね、当局のほうから通学路整備はほとんどもう終了してですね、危険箇所は解消されつつあると思いますけれども、我が白岩の踏切でございますが、白木神社前まで信号のない歩道、約50メートルでございますが、幅員がですね、非常に狭くて、直線の50センチの車が往来する中を児童・生徒は一列に並んで通行しております。大体距離的に50メートルぐらい、そういう状況でございますのでですね、本年度、白岩地区ではピカピカの新一年生が5名入学をいたします。併せまして、1年から6年生まで、全員18名が今年通学をするわけでございますが、どうかこの白岩踏切付近の改修をですね、何とかできないかですね、御検討いただきまして、地元の見回り隊、そして道川内地区の同じ

く見回り隊、交通指導員ですね、PTAの方も一緒になって頑張っていただいておりますので、どうかこの初期の1年生が慣れるまでは是非ですね、そういった指導をお願いしたいなと思っております。

それから、いろいろございますのでよろしくお願いします。

○議長（寺本修一君） 長船教育課長。

○教育課長（長船正純君） まず、最初の御質問の危険箇所の対応についてでございますが、芦北町通学路安全推進会議で示された危険箇所につきましては、各道路管理者、警察署、学校、教育委員会、総務課防災交通係等が参加しまして、現地確認を行っております。現地で状況確認を踏まえまして、解消等へつなげていくということになっております。また、白線引き等すぐに対応できるものにつきましては、即時対応いただいているところでございます。

次の御質問でございます白岩踏切付近の改修につきまして、現場は朝夕の交通量が非常に多いところでございます。現在、地元の方に見守り活動をしていただいております、大変有難く感謝しているところでございます。当箇所は、現地の調査によりまして、現場の状況を確認しました折、建設課のほうで改良計画があるというふうになっております。以上です。

○議長（寺本修一君） 宮内君。

○3番（宮内道則君） ありがとうございます。

ただいま①につきまして、危険箇所の対応として、関係機関、常時現場調査等確認してですね、即対応しておられるようでございますので、是非そういうことで実践をお願いいたしておきたいと思えます。以上で、この件につきましては理解をいたしました。

次に、2番目につきまして、現在お話がありましたように、白岩地区のほうでも見回り隊を実施いたしております。大変お褒めの言葉がありましたので、もう一人の担当にもですね、あつたとお答えをいたしたいと思っております。現在、ただいまお話のように、建設課さんのほうでもですね、お話が何か進んでいるようでございますので、どうかこれが実施につながりますよう期待を申し上げまして、通学路の安全確保についての質問を終了いたします。

次に、3番目の障がい者差別解消法についてでございますが、ただいま御説明をいただきましたとおり、障がい者差別解消法につきましては、現在、法務局で様々な施策と啓発が行われております。今年はですね、講演会とかパネルディスカッション等を実施されまして啓発をなさっているようでございます。また、本年度におきましては、熊本県で初めてというスポーツのレクリエーション、バリアフリーディスクゴルフ大会を開催されておりました、地区住民の方にですね、啓発をさらに

進めておられます。ということで、十分このような趣旨を反映した取り組みだろうと思います。よって、この障がい者差別解消法についての質問もこれで終わります。

次、4番目のですね、認知症対策についてでございますが、1番の治療費の助成はないということございまして、あくまでもこれは治療費じゃなくて医療費でございますかね。そういうことで考えていいわけですね。これは私のほうのちょっとそういった助成があるのではないかというような判断をしておりましたものですか、いたしましたが、治療費ということであれば了解をいたします。

②の認知症の施設でございますが、グループホーム等で今10施設があるというお話でございましたが、グループホームの施設には9名が一応入所の定員であると思いますけれども、10施設ありまして90人、90の方が現在施設でそういった治療と申しますか、お世話になっておられると思いますけれども、その中で大体何年ぐらい待ったら入所可能な時期になるのか、この点についてもう1点お尋ねをいたしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（寺本修一君） 一丸住民生活課長。

○住民生活課長（一丸喜八郎君） 施設によって違うとは思いますが、その23名いらっしゃいますので、その御希望はあるということですが、なかなか今空きがない状況というふうに聞いております。何年というのはなかなか難しいと思います。なるべくですね、家庭でも支えていけるような、今仕組みづくりを取り組んでいこうというふうに考えているところでございます。

○議長（寺本修一君） 宮内君。

○3番（宮内道則君） ありがとうございます。

ただいまの23名の待機者といいますか、お待ちというふうなお話でございまして、ちらほらいろいろ皆さんからお伺いをしますと、予備群と申しますか、そういった方々、相当おられるというふうにお聞きするわけですが、若干23名というのはですね、少なすぎるんじゃないかというふうに思います。特に各家庭で十分そういった治療といいますか、手当等もなさっているのかなと。また、各地域のグループ関係で、そういった施設にお世話を受けながらなさっているのかなと思うわけですが、十分町当局におかれまして、そういった実際の把握をされまして、23名ということで、私はもう100名近くは、私の調べたところではおられるような感じもいたしますものですから、十分町で今取り組んでおられます施策に則ってですね、是非今後とも取り組んでいただきたいと思います。以上をもちまして、この認知症対策についての質問を終わります。

以上で、私の全ての質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（寺本修一君） これで宮内君の質問が終わりました。

次に、坂本君。

○2番（坂本 登君） 皆さん、おはようございます。日本共産党の坂本登です。

議長の許可の下、大枠で3項目質問をいたします。

町長は、3月定例会初日の平成29年度施政方針と予算大綱の最後の結びで、「健全財政を維持する中でダイナミックな事業展開を図るため、皆さんとともに知恵を出し合って、より良いまちづくりを一層進めてまいりたい。」と、議会並びに町民の理解と協力をお願いし締めくくられました。私もより良いまちづくりを目指し、一議員として町民の皆さんの声と切実な要求を基に、知恵を出し、政策提案をしてまいります。

それでは、最初の質問に入ります。公共施設等のトイレの改善についてお聞きをいたします。熊本地震の教訓等を踏まえ、緊急時に避難所となる小中学校、各種集会所、公民館等、また一般介護予防事業のたっしやか会などが開催されている各地区公民館のトイレの洋式化を推進する考えはないかお答えください。

次に、就学援助制度の入学準備金の支払時期についてお聞きをいたします。所管委員会で入学準備金の支給時期は、入学の6月に支払っていることを確認いたしました。支給対象世帯にとって入学に要する経費の支払いは、概ね入学前の3月に発生しています。入学準備金を入学前の支給に切り替える考えはないかお答えください。

最後の質問は、芦北町の財政の現状と福祉の向上についてお聞きをいたします。

①平成27年度末で地方債現在高は約100億円となっています。そのうち臨時財政対策債など、交付税措置される分を差し引いた地方債の残高は幾らかお答えください。②地方交付税が減少する中、高齢者は増加の一途をたどっているが、今後、高齢者、障がい者など、生活弱者の暮らしや福祉の向上に対する施策をどう進めていく考えかお答えください。

以上で、本壇からの質問を終わります。再質問は質問席から行います。

○議長（寺本修一君） 坂本君の1回目の質問が終わりました。答弁を求めます。竹崎町長。

○町長（竹崎一成君） 坂本議員の御質問にお答えいたします。

まず、質問1の公共施設等のトイレの改善についてでございますが、もう御案内のように、一般的に洋式化が進んでいる中で、日常・非日常で対応できる環境整備が必要であると考えます。お尋ねの件につきましては、詳しく所管課から答弁をさせます。

質問3の①地方債残高については、これも計数的なことでございます。担当課長から答弁させます。

質問3の②につきましては、財政の観点からいいますと、合併11年目からの地方交付税の段階的縮減、それに備えましてまちづくり振興基金を積み立ててきております。これを計画的に取り崩すことで、当面の間、福祉サービス等の安定的な提供を図っていくこととしております。以上であります。

○議長（寺本修一君） 澁谷教育委員長。

○教育委員長（澁谷百鍊君） 質問1の教育委員会所管の施設に関するトイレの改善につきましては、施設整備に関する事務的なこととなりますので、担当課長から答弁をさせます。

次に、質問2の就学援助制度の入学準備金支払時期につきましては、教育長から答弁させます。以上です。

○議長（寺本修一君） 長船教育課長。

○教育課長（長船正純君） 質問1についてお答えいたします。小中学校のトイレの洋式化につきましては、平成28年度、田浦中学校で2基整備しました。和式を好む児童・生徒もいることから、今後も学校現場からの要望を基に計画的な整備に努めてまいります。

なお、避難所となる学校につきましては、総務課防災交通係と協議し、必要に応じ設置の促進に努めてまいります。以上です。

○議長（寺本修一君） 宮下生涯学習課長。

○生涯学習課長（宮下祐一君） 質問1についてお答えいたします。生涯学習課所管の指定避難施設10施設のうち、洋式トイレを9施設へ設置してあります。避難施設の中で収容人員が一番大きな町民総合センターのトイレにつきましては、利用者の要望等もあり、温水洗浄便座の設置と併せて、新たに和式6基を洋式化する計画であり、整備にかかる所要額を平成29年度の当初予算に計上しております。今後の整備につきましては、地元関係者の意見、要望、利用状況などを踏まえ、対応を検討していきたいと考えております。

次に、自治公民館のトイレの洋式化につきましては、芦北町地区公民館建設補助金交付要綱を改正し、平成29年度から公民館のトイレ洋式化に要する経費についても補助対象となりましたので、公民館からの整備要望等を踏まえ対応してまいります。以上でございます。

○議長（寺本修一君） 竹浦教育長。

○教育長（竹浦裕道君） 質問2の就学援助制度の入学準備金につきましては、入学準備に間に合うよう支給するのが最善と考えております。しかしながら、幾つか課題も示されております。今後はその課題を解決し、制度の趣旨に鑑み、入学準備に支障がないような時期に支給できるよう、既に検討を進めております。以上でございます。

ます。

○議長（寺本修一君） 柳田企画財政課長。

○企画財政課長（柳田豊彦君） 質問３の１、地方債の額について申し上げますけれども、この質問は恐らく町の実質的な負担額という趣旨であると思いますのでお答えをしますと、平成２７年度末の一般会計における地方債残高は１００億円であります。そのうち交付税措置が見込まれる額が約８０億円で、町の実質的な負担は２０億円程度ということになります。以上です。

○議長（寺本修一君） 坂本君。

○２番（坂本 登君） まず、トイレについて２回目の質問を行います。この洋式化の重要性については、町長も必要であるということで、田浦中学校で２基設置をしておるということでした。それと、各地区の公民館等につきましては、２９年度から補助対象となって、各地域の意見を聞くことにしているということでした。それで、この問題を取り上げましたのは、通告にもしていましたが、熊本地震の教訓からですね、避難所の確保と生活環境の整備、福祉避難所の開設、被災者の住宅確保、公共施設、住宅の耐震の推進など、課題に取り組まなければならないと思います。

課題の中で、今回は熊本地震の際、各地で避難所となった小中学校のトイレの洋式化についてお聞きをいたします。３月１日付熊日新聞１面に報道されました文部科学省の調査で、県内の公立小中学校のトイレ洋式化率で、県内平均が４０．４％に対し、芦北町は３５．１％と低くなっています。文部科学省の緊急提言の中では、このように書かれています。「熊本地震の教訓を踏まえ、避難所の防災機能として特にニーズの高いトイレや水、非常用電源や空調については、優先して対策を講じることが必要である。」と明記しています。文部科学省が緊急提言を出したということは、小中学校の施設が緊急避難所になるからだと思います。文部科学省は優先的に対策をするように言っていますから、財源も用意されているはずですよ。平成２８年８月２日、文科省告示で公立の義務教育小学校等施設の整備に関する施設整備基本方針に基づき、財源として国庫補助事業の学校施設環境改善交付金の交付金対象事業として、対象工事の中にトイレ環境を改善するため、一体または単独に行うもので、全体的に改修を行う工事とあり、対象工事費が４００万円から２億円になっています。この文部科学省の国庫補助事業を活用して、緊急避難所でもある小中学校のトイレの洋式化の割合をせめて５０％以上に増やす考えはないかお答えください。

○議長（寺本修一君） 長船教育課長。

○教育課長（長船正純君） 当然、トイレの整備につきましては、文科省あたりの補助事業を利用して、なるべく負担が少ないようにということで考えております。避難

所となる学校につきましてはですね、主に体育館になると思います。過去にも要望を受けまして、体育館のトイレを洋式化した経緯もございますので、今後とも交通防災係と優先順位を付けながら取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（寺本修一君） 坂本君。

○2番（坂本 登君） 避難所の場合はですね、今あるトイレだけでは足らなかったということが今度の熊本地震でも明らかになって、仮設トイレなどの必要性も十分考えられますが、今ある授業で使う子どもたちの各階にあるトイレ等の割合もですね、やはりこの新聞等で35.1%というのは、町民の方もショックを受けられた方もいると思います。なので、やっぱり平均以上、50%以上を目指して取り組んでいただきたいと、このように思います。

次に、各集落の公民館のトイレについて2回目の質問を行います。各公民館については、各地域のですね、公民館のことを言っているわけですが、29年度から補助対象となったと答弁されました。補助率を教えてください。

○議長（寺本修一君） 宮下生涯学習課長。

○生涯学習課長（宮下祐一君） トイレ洋式化の補助率につきましては、芦北町地区公民館建設補助金交付要綱に基づき、補助対象経費の2分の1以内の補助というふうになりますが、合併浄化槽の設置につきましては、芦北町浄化槽設置整備事業補助金交付要綱に定める範囲内ということになります。なお、予算化が必要でありますので、事業着工前に協議し、予算化後に補助申請、承認を受けて着工という手順になります。以上です。

○議長（寺本修一君） 坂本君。

○2番（坂本 登君） 2分の1以内の補助が出るということでしたが、この公民館ですね、各地区の公民館のことは一般介護予防事業などのたっしやか会の活動は各地区の公民館を利用し、高齢者の健康増進に役立って喜ばれています。現在、69箇所の公民館などが利用をされています。町民の声を紹介します。ある女性の方から「公民館での地元の集会やたっしやか会など楽しみにして参加をしています。一つだけお願いのあるとばってん、冬は特に寒かともあるとばってん、トイレに行くのが近うなって何遍でん行かんばいかんとですが、この頃は膝の痛うして、和式のトイレで用は足せんとですたい。一緒の思い人のがほかにも多かとですよ。ほかの地区でもトイレのことで困つとらす人がおらすとじゃなかるか。町に洋式トイレに替えてもらえるごつ言ってほしかですよ。お願いします。」という女性からの切実な要望でした。

そこで、町長にお聞きをいたします。確かに利用する施設は教育委員会の管轄の各地区の公民館です。しかし、災害時には差し当たって集落の緊急避難所にもなり

ます。また、69箇所の地区公民館で実施される事業内容は、社会福祉協議会委託のたっしゅか会が町の一般介護予防事業として利用するわけですから、各地区の参加者の意見もよく聞き、現状を調査して、防災や高齢者福祉の観点から、財源についてはあらゆる視点から研究していただきたい。高齢者福祉や防災の観点から、地区住民に負担をかけずにトイレを洋式化できないか、町長に政治決断をしていただきたい。考えをお聞かせください。

○議長（寺本修一君） 竹崎町長。

○町長（竹崎一成君） 趣旨はもう十分理解できましたので、今後検討をいたします。

○議長（寺本修一君） 坂本君。

○2番（坂本 登君） 是非よろしく願いいたします。

次に、入学準備金の2回目の質問に移ります。既に重要性は認識しており、既に検討しているという答弁だったかと思います。入学準備金の一番の問題は、言われたとおり、支給時期です。私は、子どもたちは4月の初めの入学式までの、中学生の場合、入学前に必要な制服、カバンとサブバッグ、体育用品などがあります。男子では約7万円程度、女子では約9万円程度の費用をかけて、全て揃えて登校しなくてはなりません。文部科学省の初等・中等教育局長が、児童・生徒が援助を必要とする時期に速やかに支給できるように十分配慮するようにと通知をしています。この通知後、留意事項として、(1)市町村がそれぞれの品目を給与する場合には、次に挙げる点に留意することとあり、①一般的事項としてアからクの事項があります。その中のイの部分にこのことが書かれています。文科省は援助を必要とする時期に速やかに支給できるように十分配慮するようと言っているんです。通知内容に、特に新入学児童・生徒学用品費とまで記載しているんです。この文科省の通知に照らして、入学前に支給するべきではありませんか。検討していると言われましたが、もう一度お聞きをいたします。小学校の新入生、中学校の新入生の児童・生徒、両方とも対象なのか、何年度の何月から入学準備金を支給する考えかお答えをください。

○議長（寺本修一君） 長船教育課長。

○教育課長（長船正純君） 入学準備金が年度が始まってから支払われているということにつきましては、所得の判定が必要になります。前年度の所得が5月に確定するものですから、それを受けた後に支給しているということで、ずれている部分がございます。まず、ここを改善して年度内の支給につなげていきたいというふうに考えております。

○議長（寺本修一君） 坂本君。

○2番（坂本 登君） 今の答弁では、小学生・中学生、もう両方とも対象か、何年の

何月からかということはまだおっしゃらなかったようでございます。手続きの問題も、今、全国で広がっていますので、そういう事例を参考にさせていただきたいと思います。入学準備金の前倒し支給は、予算措置の必要はなく、事務手続きの見直しで可能です。準備金の入学前支給は全国の100を超す自治体に広がっています。参考にしてほしいと思います。今年の3月から支給の前倒しをする東京都八王子市では、予算措置を伴う新たな貧困対策はなかなかできない。しかし、入学準備金の前倒しは事務手続きの見直しで可能なために決めたというふうに言っております。貧困で困っている子どもたちのために、是非決断していただきたい。要請をさせていただきます。

次に、財政の現状と福祉の向上について、2回目の質問を行います。先ほどの答弁をお聞きして、町の借金は交付税措置、いわゆる国がみてる分を差し引けば、実質的には20億円程度で、負担が少ないことがよく分かりました。芦北町の財政の現状について、私がお聞きするのは、町民の方から次のように言われました。

「町の借金が幾らあって、貯金が幾らぐらいあって、使えるお金がどれくらいで、町の財政は大丈夫なのか。」と尋ねられた方です。私は、町民から相談を受けましたので、町の財政について学習してみました。そこで、議会と執行部、そして町民とともに町の財政の現状について認識を一致させるために、私なりにまとめてみました資料を基に町長の言う健全財政を検証してみました。私は、議長の許可の下、皆さんにお配りしています。現在公表されている総務省の決算カードと芦北町歳入歳出決算書等を基に作成しました。平成16年度から27年度までを、それぞれについてグラフにしてみました。お配りした資料について簡単に説明させていただきます。

資料では、「策定者」となっていますが、「作成」の間違いですので、訂正をお願いいたします。

まず、左上の地方債現在高ですが、いわゆる町の借金の過去の累積残高です。町の借金が一番多いときは、平成19年度は約120億円で、27年度は約100億円と減少傾向になっています。答弁で明らかになったように、交付税措置、いわゆる政府がみる分を差し引けば、町が直接負担する金額は約2割程度で、町民が心配するほど多くはないということのようです。

次に、右上のグラフの積立金合計ですが、いわゆる町の財政調整基金、減債基金、その他特定目的基金の合計の貯金です。全てが自由に使えるとは限りませんが、平成16年度から増え続け、27年度では54億円の2倍に増えていることになります。

次に、真ん中の左のグラフ、実質収支ですが、町の歳入から歳出と翌年度に繰り

越す分を差し引いた残りの金額のことです。毎年残った金額は、平成23年度が一番多く残っており、6億4,300万円となっています。12年間をトータルで見ても、毎年3億円以上は残っているようです。この残った金額は全て使い切るということではありません。一定の金額は残す必要があります。実質収支は、芦北町財政運営の良いか悪いかを判断する重要なポイントです。では、幾らぐらい残すのが適当なのでしょうか。

次に、皆さん御存じのことと思います。真ん中の右のグラフ、実質収支比率です。先に説明した実質収支を標準財政規模で割った率を表したものです。パーセントが低ければ、余った予算がほとんどないことになります。逆に、パーセントが高いということは、予算が多く余っているということになります。グラフを見ますと、平成21年度を除き、5%以上になっています。これは従来から経験的に3%から5%が望ましいといわれているパーセントよりも、平成22年度から5年間を見ますと、2%から3%上回っています。これほど余す必要はないことを表しているのではないのでしょうか。芦北町は、平成27年度で実質収支比率は7.7%です。この標準財政規模の1%は6,590万円です。実質収支比率は3%から5%が望ましいとされています。自治体の場合、パーセントが高い、つまり予算が余りすぎるのも問題です。過度の予算の残りがあことは、行政サービスをきちんと行っていないかもしれないからです。実質収支比率を4.5%に抑えれば、町民の暮らしや福祉に使える財源は、あと約2億円は捻出できることになります。

そこで、3番目のグラフは、実質公債費比率ですが、財政健全化法による健全化判断比率と呼ばれる4つの指標の一つとなっており、数値の低いほうが健全といわれています。芦北町は、グラフを見てみますと、平成17年度で11%、27年度は4.4%で、かなり低くなっています。実質公債費比率が18%以上の団体は起債に当たり制約が付きます。25%以上がイエローカード、35%以上が夕張市のようなレッドカードになります。

一番下の2つのグラフは、県内の類似団体である市町村の累計で、4-2とされている御船町と長洲町と比較してみました。地方債残高では3町のうちで真ん中、積立金では最も多い結果になっています。

以上、簡単にグラフを見てもらいましたが、健全財政であるということを幾つかの資料で説明をしてみました。

そこで、町長にお聞きをいたします。私は、芦北町の財政は町の借金も減り続け、交付税措置、いわゆる政府がみてくれる分を差し引けば、心配するほどではありません。毎年の返済額も減ってきています。基金も増え続けています。毎年の予算にも一定の余裕があります。同じくらいの規模の他町と比較しても見劣りありません。

町民からの疑問や心配にも十分応えることができる財政状況と思います。職員と議会、そして町民とともに、各担当課の努力により、健全財政を維持しているという認識を一致することが大切と思いますが、財政の現状について認識を一致することに対し、町長の考えをお聞かせください。

○議長（寺本修一君） 柳田企画財政課長。

○企画財政課長（柳田豊彦君） お答えします。

まず、財政に対する議員と町のほうの認識が一致していないということを今理解いたしましたので、町の財政の現状について詳しく述べさせていただきたいと思いますが、町長も施政方針で示されておりますように、健全な財政を維持しながらということでありますが、健全な財政と財政が豊かというのは全く意味が違いますので、そのように御理解をいただきたいと思います。

その具体的な例を申し上げます。芦北町の予算は１００億円に満たないといったことですが、そのうち町の一般財源の最たるもの、いわゆる町民税を例に取りますと、１６億円をちょっと超えるぐらいの自主財源としての町民税がありますが、その１６億円の額というのは、職員の人件費、議員さんたちの特別職の人たちの人件費、嘱託職員、区長さんに払う報酬等は１９億円ぐらいあります。結局、人件費にも満たない額ということを御認識ください。

それと、財政力指数は０．２８であります。地方交付税をはじめとする依存財源に頼っている現状があるということでありまして、言うなれば財政基盤は非常に脆弱なんですけれども、補助事業を確保するなり、有利な地方債を借用するなどしながら、そういうことに配慮をしながらですね。健全な財政を保っている状況、つまり一家庭に例えますと、豊かな財政というのは１年間の年収が２，０００万円、３，０００万円ある家庭が豊かな財政でありまして、芦北町は年収が３００万円しかない。その３００万円の中でそれなりの生活をしてですね、健全な財政を保っているという状況であるということを御理解いただかないと、こういう議論はできません。

それと、経常収支比率は９０％でございます。いわゆる臨時的な、するべき橋の改修でありますとか、道路の改良でありますとか、そういう投資的な経費を生み出すのに非常に苦労している状況でございます。福祉政策を重視せろとおっしゃいますが、福祉政策は一旦始めると経常経費化してしまいますので、経常収支比率を押し上げてしまいます。つまり新たな自由なその使い道ができなくなってくるという、非常に悩みの大きい施策になりますので、新たなサービスの導入にはですね、慎重にならざるを得ないということでもあります。

それと、最後に実質収支のことをおっしゃいましたので申し上げますが、数字的なことは御指摘のとおりであります。実質収支の基準として国が５％程度が望まし

いと言っておりますが、それはそのとおりであります、それに対して芦北町は7.7%ですので、約5億ちょっとはありますが、実質収支を調整するのはですね、目的基金に年末に補正予算を組んで積み立てをすることによって、実質収支の調整はすぐにできることなんですけれども、最近は意識をしてですね、7%か8%ぐらいに持っていつているという理由があります。と申しますのは、実質収支イコール、平たく言えば前年度繰越金ですね、ですから前年度繰越金は予算書を見てもらうと分かりますように、実質収支の5億円のうち2億円は当初予算に前年度繰越金2億円として組んでおりますので、余裕が3億円ぐらい余裕があります。その3億円はちょっと確かに多いんです。なぜ多いかと申しますと、今、民主党政権からこれまでの安倍政権まで見ていますと、国の経済対策とかということで、ぽんぽんぽんというふうに非常に財政出動の多い予算がいきなり出てまいります。そのときに補正予算として対応をするためには、やはり実質収支の残りを当初予算に2億円組んでおりますので、残り1億円の繰越金ではどうも対応はできんぞと、ですから何とか繰越金で対応。補正財源として3億円を持っとかんと仕事ができない、そのような認識もあって、このように上げているということでもありますので、そのへんは理解していただきたいと思います。繰り返しますが、財政は健全でありますけれども、財政は豊かではございません。そここのところは御理解いただきます。

○議長（寺本修一君） 坂本君。

○2番（坂本 登君） 財政が豊かとは一言も言っておりません。それと、各担当課の努力によりというふうにも申し上げました。そこで、今詳しく答弁を課長がしてくれましたが、その一つ一つまでを我々が認識するということはなかなか難しいかなと、町民もそれを全てですね、もちろん専門家の皆さんは全てにおいて把握しておられるわけですけど、町民の方とですね、やっぱり認識を一にするというのは苦しい中でもやっぱり一生懸命頑張って、健全な財政を維持しているんだということを一致させてですね、施策にこれからも、より良いまちづくりのために展開していくんだという意味での施政方針での最後の町長の締めくくりの言葉だったと思うんですけど、そこで町長は健全財政を維持する中で、ダイナミックな事業展開を図ると言われました。高齢者や障がい者など、生活弱者に対する今後の施策についての考えも答弁されました。私は、財政的には今答弁にあったように、豊かではなくても健全財政を維持していく、その財源を何よりも町民の暮らしと福祉の向上及び増進のために優先的に使うという政治姿勢が大事だと思います。地方自治法1条の2では、地方公共団体は住民の福祉の増進を図ることを基本とされています。

今度は町長にお聞きをいたします。福祉の向上及び増進のために、優先的に使うという政治姿勢が、先ほどもおっしゃいましたが、大事だと思います。町長の認識を

最後にお聞かせください。

○議長（寺本修一君） 竹崎町長。

○町長（竹崎一成君） 財政運営や事業展開、中長期的展望に立って行われるのは基本でございます。そういう中で、福祉に特化せずにバランスのとれた政策が最もやっぱり望まれるところでございますので、今後ともその姿勢でいきたいと思っております。

○議長（寺本修一君） 坂本君。

○2番（坂本 登君） バランスのとれたと、町長は、「我々は、前からも全体をやることはいっぱいあるんだ。」という答弁を前からも聞いております。自分はいつも町民の声を基に政策提案をしているわけですから、そういうふうになると思うんですが、質問の冒頭にも言いましたが、町長は施政方針の結びで、「皆さんとともに知恵を出し合って、より良いまちづくりを一層進める。」と締めくくられました。そこで、これまで最も取り上げてきた小中学校給食費無料化を実現するためには、6,500万円弱あればできます。住宅リフォーム助成制度は、水俣市の場合は当初予算1,000万円でスタートし、3年間で1,800万円まで増額。本町では1,000万円もあれば十分できると思います。

私は、これからも町民の代弁者として、町民の苦難軽減のために声を聞き、要求を実現できるように議会内外で知恵を出しますので、それらに応えていただくよう要請をしておきます。これで私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（寺本修一君） これで、坂本君の質問が終わりました。

ここで暫時休憩いたします。11時20分から再開いたします。

-----○-----

休憩 午前11時05分

再開 午前11時20分

-----○-----

○議長（寺本修一君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、川尻君。

○12番（川尻成美君） 皆さん、おはようございます。今日はちょっと遅刻をいたしまして申し訳ありません。初めてテレビで一般質問を観ることができまして、何か意味深な思いで、今、壇上に上がっております。

まず、竹崎町長無投票当選、おめでとうございます。先の臨時議会において、信任を受けたということですね、表明をいたされました。さらにですね、まちづくりの行政が発展しますことを願っております。そういう意味で、今回、私は二つの問題について御質問を申し上げます。

一つは働き方改革への対応について、二つに人口減少対策について質問をいたし

ます。

まず、働き方改革への対応についてであります。この働き方改革実現会議は、2016年8月3日の安倍第二次改造内閣の発足に伴い一億総活躍社会実現のため、働き方改革担当大臣を設置し、内閣総理大臣決裁で働き方改革実現会議が設置されております。今日までには数多くの会議がなされておりますが、これを受けて熊本労働局では平成27年2月、働き方改革推進熊本地方協議会が設置されまして、県内の労使団体、地方公共団体等々、構成団体であります。組織の発足に向け協議を行っておりますが、熊本地震によりまして28年度は会議は行われませんでした。本協議の開催を平成29年、本年ですね、2月1日に本協議会を再開されております。さらに、29年度は議論を深め、具体的な取組に向けて協議をするということでもあります。

今回、上程されました議案第18号、19号の芦北町職員の労務時間、休暇等や育児休業等に関する条例の一部改正をする条例改正がありました。働き方改革実現に向けての条例改正と理解をします。基本的な法設定まではまだ時間はかかると思いますが、本町の行政改革の一つとして具体的な議論を検討すべき時期であるというふうに思っております。そういう意味で、町長の考えを聞くものであります。

2点目は、政府においても所管であります熊本労働局でも、現場の声、意見を聞くことから始めております。本町においても、まず町内の企業との意見交換等を開催し、そういう前向きな形で議論を深めるべきと思いますが、いかが考えであるかをお聞きします。

次に、第2に人口減少対策についてであります。芦北町総合計画第二次計画が2015年から2024年までの10か年の前期が平成21年に公表され、それに併せて平成27年10月において、芦北町総合戦略が公表されました。まさに、人口減少対策についての基本的な数値を掲げて、具体的方法の実現へ向けての数値年度が31年度と明記してあります。その中で移住・定住の具体的施策は最重要と考えております。平成29年度、新たに地域おこし協力隊の導入を進められるとありますが、具体的な事業の内容はどのようなになっているのか説明をされたいのであります。

第2点は、地元に残る新卒者と通告しておりますが、それも踏まえ、地元に残れるような新卒者やUターン・Iターン者が住みやすい環境になるまちづくりが不可欠と考えております。そういう意味で、有識者や地元企業等の積極的にスピーディーに協議を行い、対応を講じるべきと考えておりますが、いかがされるのかを伺うものであります。

以上申し上げましたが、29年度の予算執行上、また中長期的政策であり、真剣

に取り組むべきというふうに思いますので、前進ある答弁を期待して1回目の質問を終わります。

○議長（寺本修一君） 川尻君の1回目の質問が終わりました。答弁を求めます。

竹崎町長。

○町長（竹崎一成君） 川尻議員の御質問にお答えをいたします。

まず、質問1の働き方改革への対応についての①及び②につきましては、担当課長から答弁させます。

続きまして、質問2の移住・定住に関するお尋ねであります。魅力的なまちづくりを進める上でも移住・定住に関する施策は重要なものと考えております。これまでも種々と取り組んでおりますが、具体的内容につきましては担当課長から答弁をさせます。

○議長（寺本修一君） 山元総務課長。

○総務課長（山元信作君） 質問1の①につきましては、現在、国の働き方改革実現会議において、実行計画の取りまとめが行われているところであります。その内容を見極めた上で必要に応じて対応したいと思っております。以上でございます。

○議長（寺本修一君） 園川商工観光課長。

○商工観光課長（園川民夫君） おはようございます。

質問1の②につきましても同様でございます。また、熊本労働局、熊本県などで構成される、先ほど申されました働き方改革推進熊本地方協議会が設置されておまして、平成29年度以降具体的な方向性などについて検討されますので、その内容に応じて検討・対応していきたいと考えています。以上です。

○議長（寺本修一君） 柳田企画財政課長。

○企画財政課長（柳田豊彦君） 質問2の①につきましては、まず地域おこし協力隊制度でございますが、移住・定住の促進と地域の課題解決を図ることを目的として、平成21年度に創設された制度でございます。隊員は、地方公共団体が委嘱する特別公務員の身分で活動することになります。隊員は、都市部から住民票をこちらに移し、1年から3年以内の任期で業務に当たります。なお、隊員1人当たり約400万円が特別地方交付税で措置をされるということになっております。芦北町は、3名の隊員採用を考えておまして、地域資源の開発や情報発信、水産物直売所や加工所の支援、地域づくり団体と連携した地域課題の解決などの活動に当たってもらうことにしております。

次に、質問2の②については、平成27年度に策定した総合戦略が議員の御質問の対応策にあたるものと思っておるところでございます。御存じのように、戦略策定に当たりましては、産・官・学・金・労・言の有識者を加えた委員会を立ち上げ、

様々な意見を伺いました。併せて、主な企業からのヒアリングや方向性アンケート調査等を行い、総合戦略を策定した経緯がございます。移住・定住に関する事業につきましては、ポータルサイトの構築でありますとか、空き家等の情報発信に既に取り組んでおります。また、対外的PRツールとして動画の作成にも取り組んだところであります。さらに、移住・定住促進の一環として、先ほど申し上げました地域おこし協力隊の導入でありますとか、芦北高校の支援なども進めておるところでございます。なお、総合戦略は、随時必要な見直しを行うことになっておりますので、施策等の立案は柔軟に考えてまいりますし、新卒者や移住者が一人でも多く定住する町を目指してこの事業を展開していきたいというふうに思っております。以上です。

○議長（寺本修一君） 川尻君。

○12番（川尻成美君） それでは、第1の質問から次、質問をいたしますが、先の国会におきまして、労使との折衝の中で残業を月100時間未満で結着、これも1秒の差でいろいろ議論があったようでありますけれども、100時間未満と。まあ繁忙期に限定してでありますけれども、我々この制度がなりますと、なかなか就業規則ではですね、縛られるというようなこともあるわけですが、日本の勤勉さは世界に誇れるものがあるというふうに思いますけれども、週休二日制あるいは週の労働時間等が決まって久しいわけですが、これをさらにですね、条例化するとか、法律化するわけがありますけれども、これは企業の就業の制約というふうに捉えておりますが、まず庁舎内の行政改革の中でですね、どういうことが考えられるかというのをまず質問の中で言うわけですが、九つのテーマがあります。町長としてですね、この労働時間というのをどう理解されてですね、職員の過労とか、そういうのを抑制するため、また濃縮したやり甲斐のある労働というのがこの中でやっぱり一番要素があるというふうに思います。熊本市においては、要は残業するなというのも表明されておりますし、そういう中でですね、やはり適正な労働というのは、働き方というのは、大事かというふうに思いますが、町長の考えを、これに対しての考えをお伺いしたいと思います。

○議長（寺本修一君） 竹崎町長。

○町長（竹崎一成君） 今後、先ほども答弁がありましたように、来年度以降ですね、具体的な方向性が検討されるわけがございますので、国・県、そしてまた町という段階でこれを進めていくということになります。無論、勤勉さの中にも働き過ぎはやはり健康上の問題もありますし、ストレスの問題もあります。適切な労働環境というのはどうあるべきというのは、法律の制定される前の問題でありましてね、それはやっぱり人間の尊厳とか、労働者の方々の立場をきちっと守っていくというの

が大切であろうかと思いますが、具体的につきましては総務課長から答弁させます。

○議長（寺本修一君） 山元総務課長。

○総務課長（山元信作君） 時間外勤務の縮減等への対応としましてですね、まず課長等は業務分担の見直しや事務引き継ぎの徹底、課内若しくは全庁的な対応・体制づくりに努めます。また、課長等が時間外勤務の多い職員に対して、時間外勤務が月45時間を超えると健康障害のリスクが高まる旨、個別に助言・指導を行ってまいりたいと思います。

それから、私の立場としますと、人事ヒアリングの際に各課長から時間外勤務の状況を聴取いたしまして、事務の効率の向上及び業務分担の見直しを促すほか、人事評価を踏まえた適材適所の人員配置を行いまして、効果的かつ効率的な行政運営を行ってまいりたいと思っております。

○議長（寺本修一君） 川尻君。

○12番（川尻成美君） まさにそのとおりだというふうに思いますが、私、一回、この残業時間の多さにびっくりしまして、指摘をして、すぐ改善をしたという記憶があります。要するに、27年度の監査意見書にも表記してありますけれども、以前、何年前でしたかね、700時間が3名がおったということで調査しましたところ、やっぱりついて回る残業もあったわけですが、それをやっぱり適正にいろいろ指導されたということで改善されましたが、26年度と27年度はちょっとこれは中身は分からないんですけれども、多くなっておりますね、残業時間が。200時間から400時間が25名、400時間から500時間が5名、500時間以上が3名というふうになって、4名ほど残業時間が多くなっておりますが、これは何か意味があったのかなというふうに思いますけれども、残業するなということじゃなくて、やはり各課においていろいろイベントとかそういうものの事務に関わることで残業しなければいけないというふうな時もあるかと思いますが、やはり先ほど総務課長が申されたように、いかに残業しなくて一日の充実した働き方をすることの大事さというのを痛感しておりますし、また町内の企業においてもですね、いろんな形で試行錯誤しているというふうに思いますし、私も30名ぐらいの社員を抱えておりますけれども、やはり自主性を大事にした現場現場での働き方をやってくれるように望んでおりますし、ほとんど残業はさせません。やはり休みの大事さというのはですね、非常にあるわけで、出勤率の高い人と少ない人、いろいろおりますけれども、いかに中身の濃い仕事をしなければいけない、残業せずにですね。そういう形の中、いいアイデアはないものかなというふうに思いますが、いかがでしょうか。今、総務課長が言われた以外にいかがなものでしょうか。

○議長（寺本修一君） 山元総務課長。

○総務課長（山元信作君） まず、先ほどのその時間外が増えているということですが、要因と考えられていますのは、福祉関係、子育て世代の臨時給付金とか、臨時福祉給付金の事務とか、それから公会計制度の対応、それからマイナンバー制度とかの対応、第6次介護計画事業とかが増えておりますので、そういう諸々のがあって増えてきたんじゃないかなろうかと思っております。

それから、その時間外をなるべく少なくしようというのはですね、全庁的に呼びかけておりまして、まずその係内でですね、事務のその一人に集中しなくてですね、みんなで分散できることはみんなでやってもらうようなですね、指導をしているところでございます。そんなふうに職員全体でですね、カバーし合っていければ、よりこの時間外が少なくできるのじゃないかなろうかと思っております。以上でございます。

○議長（寺本修一君） 川尻君。

○12番（川尻成美君） 大変難しいといいますが、しかしながら、避けて通れないことだというふうに思います。私はやっぱり芦北町に来る企業が、団体の方々の勤務状況とかそういうのもやっぱり現場を知るということは大事なことで、2点目に上げたように、やっぱりどういう状況なのかというのは、把握しとくべきかなと。必ず年に一度は就業規則の見直しをする法律がありますし、基準局に提出しておる中で、うちも安全委員会というのがありまして、必ずそれに対して署名を自らして出すわけでありまして、この9のテーマがありますけれども、要するに労働生産性の向上というのがありますけれども、役場における労働生産性の向上というのは、どういうふうに理解すればいいんでしょうかね。町長、いかがでしょうか。

○議長（寺本修一君） 竹崎町長。

○町長（竹崎一成君） 職種によってですね、違いますので、物を具体的に生み出す職業、あるいは目に見えないけれども、サービスを提供するところとかですね、様々ありますので、いきなりこうということはですね、ここではちょっと申し上げにくいところです。

○議長（寺本修一君） 川尻君。

○12番（川尻成美君） 私は、住民サービスが労働生産性の向上というふうに、役場においてはですね、住民サービスがその生産性の向上というふうに理解をしていますので、そういう庁舎内の職場環境づくりというのは、これが一番かなというふうに思っておりますので、そういうふうになるように努めていただきたいなというふうに思います。

やはり、特としてですね、残業はやっぱりこれくらいに止めろよというような、

まず方向を出しますとですね、一日の働き方がそれに向けていくんじゃないかというふうに思います。例えばですけれども、現場に10名配属しておりますけど、忙しいときは7名、8名しか行かない。しかし、それで間に合うんですね。なぜか、それはやっぱり意識なんです、働き方の。そうしないと、やっぱりいけないというふうに思いますし、暇なときはやっぱりだらだらとは言いませんけれども、やっぱり時間にはそれだけの人間がかかりますし、忙しいときにはコンパクトにスピーディーにやっぱり仕事ができるという、人間のやっぱり習性ですね。それがありますので、いかにいい環境づくりを作っていくかというのが、この働き方の大事さになっていくわけですので、やはりそういう職場づくり、職場の雰囲気も大事ななというふうに思いますので、今後そういう形の庁舎内にあってもらいたいなというふうに切望をいたします。

次の2点目にもう入りますけれども、今回、540万円の報酬が計上されております。3名だというふうに思います。月に18万ですかね。もう今、情報社会で、ネットで見ればですね、これはすぐにいろんな事例もありますし、五木村はですね、もう4期目に入っております。2つのテーマを掲げてありますよね。結局、うちは今、課長が申されましたが、地域の商品開発とかそういう形でありますけれども、もう明確に何々をするというのは分かっておるんですかね。

○議長（寺本修一君） 柳田企画財政課長。

○企画財政課長（柳田豊彦君） お答えします。

まず、その最初の答弁で申し上げましたけれども、水産物の直売所、加工所の運営支援に当たってもらう。あと一つは、ふるさと納税の充実も併せた、その新商品といいますか、特産品の開発等の業務に当たってもらう。それと、あとは地域おこし協力等と連携して、新たな地域おこしの取組に当たってもらうというふうなことをアバウトに決めております。活動をですね、あまりにもフォーマットし過ぎてやってしまうよりも、ある程度、自由度をもった活動をしてもらうような形で思っております。と申しますのが、これはいわゆる新たな人材を確保するということはもちろんなんですけれども、それ以外に本音を申しますと、最終的に芦北町にその方々が定住してもらうという目的もございますのでですね、ある程度、自由にさせて、芦北町の風土に触れて、将来、芦北町に住み続けるというよう形にもっていければなというふうに思っております。なお、全国的な先進的な事例を申し上げますとですね、任期が終了した後の隊員が、その地に留まる生活をされるというのが大体定着されるまで、6割は定着していただいているということでございますので、これはやってみる価値は十分あるなど、その移住・定住の意味がですね、と思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（寺本修一君） 川尻君。

○12番（川尻成美君） 総合戦略の一つにもありますし、やっぱり定住・移住においては、人口の1%受け入れをすれば、それは成功だとかいうこともネットに載ってありましたので、やっぱり人口減は地方においては最優先課題だというふうに理解しておりますし、やはり早く手を打つということが不可欠ではないだろうかというふうに思います。具体的に3名はいつ頃というようなことですか。

○議長（寺本修一君） 柳田企画財政課長。

○企画財政課長（柳田豊彦君） 今後のスケジュールを申し上げたいと思いますが、この議会が終了後ですね、募集を開始して、4月の中旬頃までに募集を行いたい。4月の下旬頃を目途に書類選考を行いまして、その次、5月から5月いっぱいにかけて面接等を行った上で隊員を決定をしたいというふうに思います。それと、その後は6月からその受け入れる団体、関連する団体等に対しての事前説明等を行いながら、7月には委嘱状の交付ができればというふうなことで思っておるところでございます。

○議長（寺本修一君） 川尻君。

○12番（川尻成美君） この協力隊の隊員は1年ないし3年までというふうにあります。功を奏してですね、定住されれば、非常にいいなというふうに思いますし、この実施計画の中でもこの折り込みをしなければいけないなというふうに思っておりますので、今回の実施計画ではやはりさらに具体的に記述もしてありますし、一番最後の25ページにはですね、地域づくりの推進の項目も定住・移住者等の目標の数値化がされておりますので、さらに具体的にになるんじゃないかなというふうに思います。

そこで、今6割程度は移住するというふうに思いますけれども、これはやっぱりこの隊員のビジネスアワード事業というビジネスを起こすという形のふうにもありますけれども、そういうふうな指導・誘導というの、今後どんなでしょうか。

○議長（寺本修一君） 柳田企画財政課長。

○企画財政課長（柳田豊彦君） 先ほど申し上げましたようにですね、そういうその自分で起業してもらおうとか、そのようなことも踏まえて、ある程度自由度をもって活動してもらったほうが、今指摘のようなことにつながっていくんだろうなという認識で、今のところありますので、新たな企業を興すに当たっては、今、芦北町である支援制度等を使いながらですね、支援をすることになっていくんだろうというふうに思います。

○議長（寺本修一君） 川尻君。

○12番（川尻成美君） そして、一番悩みは、新卒者がやっぱり県外、大都市部に行

くと、就職するということが一つの悩みですけれども、やはり出ないといひますか、出ないような方策というのがまちづくりの中にも、人口定住の中の一環というふうに思ひますし、私も一企業として、またロータリーの団体の中ですね、やっぱり自分の企業というのがやっぱり誇れる企業でないと魅力がないし、来ないというふうに思ひますし、鋭意努力をしておりますけれども、やはりその中のまちづくりというのは非常に大事なものであるというふうに思ひますけれども、町長、この機会にですね、やはり少しでもこの戦略の数値目標が実現できるようにやらなければいけないというふうに思ひますけれども、町長の思ひ入れというか、それをちょっとお聞きしたいと思ひます。

○議長（寺本修一君） 竹崎町長。

○町長（竹崎一成君） つい数日前、芦北振興局で水俣、津奈木、芦北、行政をはじめとしまして、各産業分野の代表の方々、副知事も来られまして、水俣・芦北地域振興計画の説明を受け、意見交換をしたわけですが、その中で各分野からですね、共通して出たのは、雇用促進であります。これはもう一人、芦北町だけの問題でなくて、この水俣・芦北圏域全体の問題、そして芦北町は八代市、氷川町とも定住自立圏協定を結んでおりますので、この両刀立てで取り組んでいきたいと思ひます。もちろん地場産業の育成もして、力をつけて、雇用促進をしていただく。そしてまた新たに來ていただく、その方策もまた求めていけたらというふうに思ひます。

○議長（寺本修一君） 川尻君。

○12番（川尻成美君） なかなか新たな事業というのができない財政事情でもありますが、これに期待をいたすところでありますので、定年をされる職員の皆さんがおられますけれども、自分たちのつくったものですね、是非実現できますようにですね、期待をするものであります。

以上で、時間も残しておりますけれども、12時になりますので、私の一般質問を終わりたいと思ひます。

○議長（寺本修一君） これで、川尻君の質問が終わりました。

ここで暫時休憩します。午後1時から再開します。

-----○-----

休憩 午前11時55分

再開 午後 1時00分

-----○-----

○議長（寺本修一君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、荒川君。

○1番（荒川知章君） 皆さん、こんにちは。議長の許可を得ましたので、私は通告し

ております4点について質問をいたします。

一つ目は水俣・芦北地域振興計画に基づく芦北町の観光推進事業について、二つ目は水俣・芦北地域振興財団助成事業について、三つ目は芦北町の海浜レジャー及び観光振興について、四つ目は健康づくり推進事業の取組についてであります。

まず、水俣・芦北地域振興計画に基づく芦北町の観光推進事業について質問いたします。水俣・芦北地域は水俣病の発生により住民の健康被害と環境破壊を被るとともに、社会・経済基盤が大きく損なわれ、地域の活力が著しく低下しましたが、昭和53年の閣議了解を踏まえ、水俣・芦北地域振興計画による地域の振興が図られています。その中の平成29年度の事業計画の芦北町の取組として、「地域の特色を生かした地域拠点づくり事業計画の中に計石港を母港とするうたせ船は、水俣・芦北地域を代表する観光資源であるとともに、伝統漁法や船体を継承しているなど、文化的価値も高い。また、昭和56年から観光を目的とした観光うたせ船にも取り組み、現在、芦北町の観光の顔として、12隻が操業している。」とありますが、観光うたせ船の現在の利用状況はどうなっているか。また、今後の誘客対策をどう考えているのかお尋ねいたします。

次に、水俣・芦北地域振興財団助成事業について質問いたします。水俣・芦北地域を対象に、地域の産業の振興に関する事業、自主的な地域づくり活動を支援する事業、地域の環境技術・研究開発を促進する事業、その他国の要請に基づく金融支援等を行う水俣・芦北地域振興財団の助成事業があります。この助成事業におけるこれまでの町内の取組団体及び事業内容はどのようなものがあるのか。また、平成28年10月の広報あしきたには、平成29年度の募集がされていましたが、平成29年度の町内の取組団体及び事業内容はどうなっているのかお尋ねいたします。

次に、芦北町の手浜レジャー及び観光振興について2点質問いたします。1点目は、南九州西回り自動車道の延伸により、津奈木インターチェンジが開通したところですが、田浦インターチェンジ開通当時から現在まで、芦北海浜総合公園、御立岬公園など、手浜レジャーの施設の来園者数や収支状況などにどのような変化があっているのかお尋ねいたします。2点目は、同施設に対する来場者を増やすための具体的な対策及び手浜レジャーや御立岬ビーチサッカーフェスティバル、ビーチバレーinくまもと大会、芦北うたせマラソン大会などの観光イベント等、町外の人に対する芦北町のアピール活動はどのように行っているのかお尋ねいたします。

最後に、健康づくり推進事業の取組について質問いたします。近年、全国の市町村で健康ポイント制度を取り入れ、健康増進に取り組んでいる市町村があります。健康ポイント制度とは、厚生労働省が普及を進めている制度で、国家戦力である健康寿命の延伸を実現させるための具体的方策の一つとして期待されています。歩い

たり、健康診断を受けたりして、健康づくりに努力する住民に対して、自治体がポイントを付与し、そのポイントに応じて様々なサービスを提供する、地域における新しい健康づくりの仕組みです。芦北町もこの健康ポイント制度を取り入れ、町民の健康維持・増進を図り、そのポイントを町内で利用できるようにして、健康と町内の活性化を同時に図るという考えはないかお尋ねいたします。

以上、壇上での質問は終わります。

○議長（寺本修一君） 荒川君の1回目の質問が終わりました。答弁を求めます。竹崎町長。

○町長（竹崎一成君） 荒川議員の御質問にお答えします。

まず、質問1の観光うたせ船の利用状況や今後の誘客対策についてでございますが、数値などが出てまいりますので、担当課長から答弁をさせます。

次の水俣・芦北振興財団の事業内容等につきましても、具体的な内容でございますので、担当課長から答弁をさせます。

質問3の芦北町の海浜レジャー及び観光振興についてでございますが、これも数値的など具体的な内容でありますので、担当課長から答弁をさせたいと思います。

質問の4につきましては、芦北町健康づくり推進条例に基づきまして、本町もポイント制は別としていろいろ取り組んでおりますので、具体的に後ほど担当課長より答弁させます。

○議長（寺本修一君） 園川商工観光課長。

○商工観光課長（園川民夫君） お答えいたします。

質問1の利用状況につきましては、ピーク時の平成7年は1万4,750人、直近の平成26年は2,879人、平成27年は2,915人で、平成28年は熊本地震の影響もあり2,044人でありました。

次に、今後の誘客対策につきましては、引き続き主要な観光素材としてテレビ・雑誌などのメディア広報や、イベントでのPR活動などに取り組みますとともに、計石温泉センター横に来月オープン予定の直売食堂と連携し、誘客に努めたいと思います。

一方、定住自立圏協定を締結しています八代市、氷川町と、地方創生推進交付金を活用しまして、利用客増加につながる観光プロモーションなどを実施してまいります。具体的には、中国国営テレビやBS放送などでのPRを目的とした映像製作や、新たなPRイベントの開催に取り組みます。また、クルーズ船で訪れる外国人をターゲットに、クルーズ船内でのうたせ船のPR映像放映やうたせ船への乗船プログラム作りなどのインバウンド向けプロモーション施策を実施したいと考えております。

続きまして、質問３の１であります。１２年前の平成１７年２月開通の田浦インターチェンジと、昨年２月開通の津奈木インターチェンジとの間の比較の質問ですが、津奈木インターチェンジが供用開始しました平成２８年度の数値が未確定でありますので、前年の平成２７年度の数値と比較してお答えいたします。御立岬公園では、来園者数がマイナス８万３,３１０人の４３％の減ですが、直営する有限会社御立岬の平成１７年度公園の経常損益は、比較いたしまして１,４３５万５,０００円の黒字好転となっております。一方、芦北海浜総合公園につきましても、来園者数マイナス１万１,７８７人の２６％減ですが、ほぼ横ばいの収支状況となっております。来園者数減少の要因として考えられますのは、景気低迷、レジャーニーズの多様化、自然災害の増加、少子高齢化などが挙げられますが、収支状況の好転、また安定につきましては、各施設での経費削減などが図られている成果だと考えております。

続きまして、質問３の②の具体的な対策及びアピール活動についてですが、引き続き継続的な観光ＰＲ、情報発信はもとより、昨年から県南自治体と連携して、福岡市や鹿児島市での観光ＰＲ活動、関東での大型観光展への参加、また香港の旅行エージェント１１社への商談活動などに取り組んできたところであります。また、福岡都市圏での物産販売やイベントを実施しまして、本町観光の認知度向上、誘客促進を図る事業を実施してまいりました。平成２９年度からは地方創生推進交付金事業を活用しまして、八代市、氷川町と広域観光圏を形成することで、中国国営テレビ番組への放映を視野に入れた映像製作や、周遊ルートの設定、旅行商品の開発など、インバウンドと国内観光の両輪による本町の特性を生かした観光振興を図りたいと考えております。また、施設の維持修繕、更新についても計画的に進めております。以上です。

○議長（寺本修一君） 柳田企画財政課長。

○企画財政課長（柳田豊彦君） それでは、私のほうから水俣・芦北地域振興財団助成事業のことについて申し上げます。この事業は、水俣・芦北振興計画との整合性があり、地域振興事業と環境技術研究開発事業という二つの事業に対して民間から応募ができるということになっております。芦北町の関係では、平成１３年度から本年度まで、地域振興事業に対して８０件が採択をされておまして、１億７９７万４,０００円の助成を受けております。環境技術研究開発事業は７件、１,８８８万６,０００円ということになっています。事業内容として主なものだけを紹介いたしますと、地域振興事業では芦北鉄砲隊が行いました全国火縄銃サミットでありますとか、赤松館におけるイベント、ＮＰＯ法人が行った米粉や黒砂糖を使った商品開発事業などがこの振興財団の助成を受けているということでございます。一方、

研究開発事業につきましては、佐敷港におけますアマモやアサリの増殖試験などが採択をされております。

次に、29年度の取組内容でございますが、5組から応募があり、現在、財団におきまして審査が終わったところと聞いております。具体的な内容は、町外に芦北からの情報を発信するイベントの開催でありますとか、荒廃した竹林や山林の再生を目指す事業などが応募されているというふうに伺っております。以上です。

○議長（寺本修一君） 一丸住民生活課長。

○住民生活課長（一丸喜八郎君） 質問4についてお答えいたします。

健康ポイント制度は、今お話のように、国が取り組んでいる事業ということで、全国で約100団体が現在取り組んでいるようでございます。熊本県では、天草市が取り組んでおります。芦北町では、平成27年度から第2期芦北町健康づくり推進計画を策定いたしまして、生涯にわたり健康で心豊かに暮らすことができる活力ある町の実現を目指して進めておるところです。その事業として、現在、健康隊によります芦北健康体操の普及、それから健康に関する講演会等を今行っております。また、その以前からたっしゃか会を各公民館で開催しております。健康増進を図っているというところでございます。健康ポイント制度については、現在、総合特区制度を利用して大規模実証実験が行われている最中でありまして、今後、研究をさせていただければというふうに思っております。

○議長（寺本修一君） 荒川君。

○1番（荒川知章君） 1点目の水俣・芦北地域振興計画に基づく芦北町の観光推進事業における芦北観光うたせ船の現在の利用状況、また誘客対策につきまして、課長よりピーク時の平成7年は1万4,750人、平成28年は地震の影響もあり2,044人であった。また、クルーズ船内でもうたせ船のPRをされるという答弁をいただきました。先月、2月6日にはクルーズ船客が1,800人、御立岬公園に訪れたということで、本年3月号の熊本経済に掲載されていましたが、例えば幾つかのグループ等分け、観光うたせ船に乗り、漁をしてその魚を食べるといった体験をしてもらうことで話題になり、人気のコースになる可能性もあります。うたせ船乗船料は、定員12名で4万円かかります。また、料理は別料金で1万円のコースと2万円のコースがあります。現在、旅行の仕方も多様化していて、個人で旅行をする人も増えています。個人で遊びに来て、観光うたせ船に乗りたいという人もいます。また、計石温泉センターの隣接地にレストランと、直売所を兼ねたえび庵を今年の4月にオープン予定で、町は運営支援をしていくということですが、えび庵に来られたお客さまを観光うたせ船に乗ってもらうような仕掛けも必要になると思います。現在、期間を限定して乗り合いで運行されていますが、少人数でも

観光うたせ船に乗れる乗り合いもあると積極的にアピールすることも大切だと思います。

先日、計石港に廃船になったうたせ船があるのを目にしました。景観上、イメージの低下につながると思われますが、うたせ船の運営も厳しいものがあるのではないかと感じました。現在、12隻の観光うたせ船が操業しているということですが、10年ほどの観光うたせ船と漁をするうたせ船の数の推移はどうなっていますか。また、そのうち後継者がいらっしゃるうたせ船はそれぞれどれくらいいらっしゃいますか。

○議長（寺本修一君） 園川商工観光課長。

○商工観光課長（園川民夫君） お答えをいたします。

昨年12月末での数字であります。通常、漁業を行ってありますうたせ船、平成18年は25隻、平成28年は14隻であります。その中、観光うたせ船につきましては、同じ年の比較であります、19隻と10隻であります。うち、後継者がいらっしゃるの3隻であります。以上です。

○議長（寺本修一君） 荒川君。

○1番（荒川知章君） 状況は厳しいと思われますが、うたせ船は海の貴婦人といわれ、芦北・水俣地域のシンボルです。後世まで受け継いでいかなければならない文化だと思います。町は平成17年に観光うたせ船保存条例も策定し、今後も保存していかなければならない重要な文化だと考えられていると思います。今後、後継者問題が大きな課題になると思われますが、町として何かしらの支援策、または積極的に町外・県外に後継者を募集するような対策も必要になってくると思います。こういったことも踏まえて、町長の御見解をお願いいたします。

○議長（寺本修一君） 竹崎町長。

○町長（竹崎一成君） 御指摘のとおりですね、観光うたせ船、また出漁を生業とするうたせ船、非常に厳しい状況にあります。漁業資源が減少しております。併せまして、国民の魚離れが進んでおります。また、異常気象等によります計画的な操業がなかなかできないという諸々の要件がございまして、不振にあえいでいるということであります。一昔前に言っておった3Kの仕事の一つにもなろうかと思うわけですが、これまでも保存条例を制定して、諸般の支援事業をやってまいりましたが、これではもう抜本的な解決策にはならないというふうに思っております。そこで、支援は支援として続けながらも、今後どういう形で保存をしていくかということ、これはもう喫緊の課題に位置付けておるところであります。また、国から未来に残す漁業・漁村の財産百選に選ばれておるところでございまして、そういう位置付けもぴしっと明確にしながら、今後取り組んでまいりたいというふうに思

っているところであります。

○議長（寺本修一君） 荒川君。

○1番（荒川知章君） 町長の御決意をいただき、安心いたしました。この件がこれかも円滑に推進していけますよう、私からもお願いいたします。

次に、水俣・芦北地域振興財団助成事業について、町内の取組団体及び事業内容を課長より答弁いただきました。この事業は芦北町、津奈木町、水俣市が活用できる事業ですが、芦北町が活用している割合を過去5年間ほど教えていただけますか。

○議長（寺本修一君） 柳田企画財政課長。

○企画財政課長（柳田豊彦君） それでは、私の手元にありました平成25年度から28年度までの合計で申し上げたいと思いますが、水俣市が4年間の合計が53件、芦北町が22件、津奈木町が13件、それに御所浦の対象になっておりまして、御所浦が3件の合計91件となっておりますので、過去4年間の割合でいいますと、ほぼ全体の4分の1は芦北町の関係者が活用しているということであります。なお、平成29年度、今審議が行われている部分につきましては、水俣市が11件、芦北町が5件、津奈木町が1件の申請となっております。

○議長（寺本修一君） 荒川君。

○1番（荒川知章君） ありがとうございます。

この水俣・芦北地域振興財団助成事業は、80億円の基金をもとに、運用した利益を使って、水俣・芦北地域の振興を図っていくという、とても素晴らしい事業です。平成28年10月号の広報あしきたには、平成28年に町内で利用された団体名と事業内容が記載され、平成29年の募集がされていましたが、こういう素晴らしい事業があるということを知らない町民がまだたくさんいらっしゃると思います。芦北町を自分たちでも盛り上げていきたいと思っはいるが、資金不足であきらめている町民の方が、こういう助成事業があることを知ることにより、噴気して芦北町を活性化していける可能性があります。こういう素晴らしい助成事業をもっと多くの町民の方々に知ってもらったほうがいいと思われます。県は県で当然広報活動をされると思いますが、町としても広報あしきたで告知される以外に、独自に区長会議や団体の会議等でもっと活用されるような周知を徹底されることも必要だと思います。何か考えていらっしゃいますでしょうか。

○議長（寺本修一君） 柳田企画財政課長。

○企画財政課長（柳田豊彦君） お答えします。

広報の強化ということにつきましては、この事業は従来、熊本県の求めに応じてですね、広報あしきたで紹介をしてきたという経緯がございますが、熊本県自体のこの財団事業については、もっと広報を強化するというような方向が示されており

ます。そういうことを踏まえて、区長会、福祉団体の周知を図れという御指摘もありますので、その熊本県との調整も踏まえた上でですね、検討していきたいというふうに思います。

○議長（寺本修一君） 荒川君。

○1番（荒川知章君） 是非、もっと多くの方に知っていただけるように検討していただければと思います。

次に、3点目の芦北町の海浜レジャー及び観光振興について、芦北海浜総合公園、御立岬公園など、海浜レジャー施設の来園者数と収支状況は、課長より、御立岬公園の来園者数は43%減であるが、比較して1,435万5,000円の黒字転換、芦北海浜総合公園の来園者数は26%の減であるが、ほぼ横ばいの収支であるとの答弁をいただきました。芦北海浜総合公園、御立岬公園、それぞれの施設を維持するために、年間の維持費はそれぞれどれくらい必要でしょうか。

○議長（寺本修一君） 園川商工観光課長。

○商工観光課長（園川民夫君） 基本的な施設の維持管理するための経費であります。

まず、御立岬公園ですけれども、平成27年度の決算ですが、2,255万9,000円であります。一方、芦北海浜総合公園であります、同じ年度ですけど、1,167万7,000円であります。以上です。

○議長（寺本修一君） 荒川君。

○1番（荒川知章君） ありがとうございます。

収支は、芦北海浜総合公園は横ばい、御立岬公園に関しましては町の経営努力により黒字転換されたということで、町の経営努力が数字として現れた結果だと思えます。来園者数に目を向けてみますと、芦北海浜総合公園は26%の減、御立岬公園は43%の減となっており、町に訪れていただいている方々は減っている状況です。答弁いただいた維持費を賄うためにも、来園者数を確保する必要があります。海浜レジャー施設に対する来場者数を増やすための具体的な対策及び海浜レジャーや観光イベント等に来た町外の人に対する芦北町のアピール活動について、課長のほうより継続的な観光PR、情報発信はもとより、福岡都市圏での誘客促進やほかの自治体と連携した観光振興を高めるとの答弁をいただきました。海浜レジャーと観光振興が芦北町が外貨を稼ぐ大きな柱の一つだと思います。県内では芦北と天草が海水浴場がある地域として知られていますが、現在では高速道路も開通し、天草よりも利便性が良くなっています。どうしたらもっと人が呼べる海浜レジャーによる観光振興ができるのか、より考えていかなければならないと思います。芦北海浜総合公園には、ゾーブやローラーリュージュがありますが、無料で遊べる遊具を併設したり、マウンテンバイクなど、自分で持ち込めるものを使って遊べるコース作

りなど、現在あるものに一手間加えて、より良いものにすることも大切になってく
ると思います。また、その周辺にある観光資源となり得るものを見つけ出し、例え
ばフットバスのコースに活用するなど可能だと思います。また、小田浦地区には
松ヶ崎海浜施設がありますが、現在利用していない状態になっています。松ヶ崎海
浜施設は、例えばオートキャンプ場専用にして、海水浴以外の利用を考えると、
現在砂浜ではバーベキューや花火を禁止しているところがほとんどですが、松ヶ崎
海浜施設に関してはオートキャンプをする利用者に限定して、バーベキューや音が
うるさくない花火は許可するなどして、ほかの海水浴場との差別化を図り、砂浜で
オートキャンプができる海水浴場として町外に発信していくことも考えられると思
います。海浜レジャーや観光イベントに來た町外の人に対するアピール活動につい
ては、町内の商店や飲食店、または温泉や町内の施設の割引券を付けるなどして、
一度町内の店を利用してもらい、リピート客になってもらい、イベント以外の日でも
芦北町に足を運んでもらえるような仕組みづくりを考えていかなければならない
と思います。芦北町でいつどのようなイベントをしているのか把握されてない町内
の商店や飲食店があると聞いたことがあります。周知を徹底する体制づくりも必要
になるかと思います。周知を徹底することで、町外から來た人に積極的に声かけを
するなどして、町を挙げて町外の人をおもてなしすることが可能になります。こう
いったことも踏まえて、課長、もう一度御見解をお願いいたします。

○議長（寺本修一君） 園川商工観光課長。

○商工観光課長（園川民夫君） お答えいたします。

周知についてであります。町内で開催されますイベントにつきましては、広報紙
や町だより、防災行政無線はもとより、芦北町公式ホームページ、観光協会のフェ
イスブック、そのほか新聞、FMラジオなどで十分に、かつ丁寧に周知を図ってい
るところであります。また、イベント次第では、ポスターやチラシなども配布する
場合もございます。

また、町外から來られた観光客への周知についてですけれども、例えば今月末に
行われますうたせマラソン大会では、大会冊子の中におきまして、観光施設のPR、
また温泉入浴サービス券やお買い物券なども配布するようにしております。町内の
観光情報を紹介するコーナーの設置も行いたいというふうに予定をしております。

そのほかですけれども、町内3箇所にあります道の駅などの観光施設には、各種
観光パンフを常時置いて情報発信を行っております。以上です。

○議長（寺本修一君） 荒川君。

○1番（荒川知章君） 是非、今度も引き続き町の観光PRに取り組んでいただきます
ようお願いいたします。

次に、４点目の健康づくり推進事業の取組につきまして、課長より、今後研究をしていくとの答弁をいただきました。芦北町も高齢化が進み、２０２０年ぐらいには６５歳以上の人口が、１５歳から６４歳までの人口と変わらないほどになると予想されています。こういったことを踏まえ、６５歳以上の方々が健康で生きがいのあるまちづくりが必要になると思います。健康寿命とは、平均寿命から日常的・継続的な医療・介護に依存して生きる期間を除いた期間といわれていますが、２０１３年に厚生労働省が発表している健康寿命と平均寿命との差は、男性が９．０２年、女性が１２．４０年となっており、男女とも約１０年もの長い期間、何らかの介護が必要な状態で生活をしていることになります。

先ほど課長の答弁にもありましたとおり、県内では天草市が健康ポイント制度を取り入れ、高校生を除く１８歳以上が参加できるようになっています。参加希望者は申込用紙に記入し、役所に提出します。健康診断を受診したり、市主催のマラソン大会に参加したり、健康づくり講演会に参加したり、個人の目標を決め、取り組んだらポイントを付与し、１年間に１，０００ポイント以上になれば５，０００円分の商品券の申請が可能になっています。また、健康情報を受信するためのＥメールに登録することでもポイントになるということですが、本町が導入する場合には、希望者にはＥメールやＬＩＮＥ等にも登録してもらい、健康情報だけではなく、町の情報も発信するようにすれば、町の様々な情報の共有にもつながると思います。さらには、町民の方々の様々な意見を募集し、アンケートに答えていただくこともできると思います。スマートフォンを持っている方々には、熊本スマートライフというグループで共有できる歩数計のアプリもあり、職場やグループで歩数を競い合うこともできるシステムもあります。そのアプリを町で管理をすれば、実際の歩数も把握できるようになります。また、熊本スマートライフは保健所の飲食店等に進めている活動で、導入している町内の飲食店と連携すれば、より一層の相乗効果が図れると思います。健康であることは、人生において非常に大切であると誰もが認めることであると思いますが、この健康ポイント制度を芦北町でも取り入れることで、町民の皆さんの健康寿命を延ばし、生き生きと長生きができるまちづくりが実現できると思われます。町内の医療機関とも連携して、健康寿命が長い健康の町を創り上げれば、より一層芦北町に住んで良かったと思えるまちづくりができると思います。

また、バリアフリー化していない公民館が町内にはあると思いますが、公民館をバリアフリー化するなどして、今まで以上に住民の方が集える場所を確保し、簡単な運動をみんなで行う場所にするなどして、地域の皆さんの交流の機会をより一層増やすこともできると思います。そして、健康ポイントを、例えば町内の商工会や

観光協会に加盟しているお店や飲食店、または観光うたせ船の利用等で使えるようにすることにより、町内の経済の活性化にもつながると思います。芦北町では、健康づくり推進事業に取り組まれています。こういったことを踏まえて、健康ポイント制度を試験的にも導入される考えはありませんか。御見解をお願いいたします。

○議長（寺本修一君） 一丸住民生活課長。

○住民生活課長（一丸喜八郎君） 今の御指摘のとおり、芦北町の高齢化状況といえますのは、今40.5%、75歳以上、後期高齢者の方ももう24.1%の数値となっています。今後、その高齢化は進むだろうというふうに予測されます。そのような中でですね、健康寿命の延伸というのは、今お話がありましたように、重要な取り組みであるというふうに認識しております。平成30年度から新しく第3期の健康づくり推進計画の策定を予定しております。その第2期の評価を含めたアンケートを実は行う予定でございます。そしてまた、各方面からいろんな検討をいただくということで今やっております。その中で健康増進の取り組みなど、いろいろな御意見を伺えるのかなというふうに考えております。

健康ポイント制度については、その試験的な導入というのは、なかなか難しいんじゃないかと基本的に考えております。実証実験のその分析結果が徐々に示されてくるというふうに思いますので、そこをですね、注目していきたいなというふうに考えております。

○議長（寺本修一君） 荒川君。

○1番（荒川知章君） 是非、前向きに検討していただければと思います。

最後に、水俣・芦北地域振興財団の助成事業を上手に活用しながら、地域創生を推進する上でも、芦北町の海浜レジャーの柱である観光うたせ船、芦北海浜総合公園、御立岬公園をさらに魅力的にし、また健康寿命を延ばすまちづくりに取り組むことで、より一層町内の活性化が図られると考えます。

私は、今回質問した件に関しましては、今後も高い関心をもって活動してまいりたいと思います。以上で終わります。

○議長（寺本修一君） これで、荒川君の質問が終わりました。

以上で、一般質問を終わります。

本日の日程は、全て終了しました。

本日は、これで散会いたします。

御苦労さまでした。

—————○—————

散会 午後1時35分

平成29年第2回芦北町議会定例会議事日程（第3号）

平成29年3月17日

午前10時 開 議
於 議 場

1 議事日程

（一括議題＝第1から第12まで）

- 第 1 議案第 5 号 平成29年度芦北町一般会計予算
- 第 2 議案第 6 号 平成29年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算
- 第 3 議案第 7 号 平成29年度芦北町介護保険事業特別会計予算
- 第 4 議案第 8 号 平成29年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算
- 第 5 議案第 9 号 平成29年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算
- 第 6 議案第10号 平成29年度芦北町有温泉事業特別会計予算
- 第 7 議案第11号 平成29年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算
- 第 8 議案第12号 平成29年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算
- 第 9 議案第13号 平成29年度芦北町水道事業会計予算
- 第10 議案第14号 芦北町ふるさと応援寄附金基金条例の制定について
- 第11 議案第15号 芦北町使用料等審議会条例の制定について
- 第12 議案第16号 芦北町特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に
関する条例の一部を改正する条例の制定について

第13 議員派遣の件

（一括議題＝第14から第17まで）

- 第14 総務常任委員会の閉会中の継続調査の申出
- 第15 建設経済常任委員会の閉会中の継続調査の申出
- 第16 文教厚生常任委員会の閉会中の継続調査の申出
- 第17 議会運営委員会の閉会中の継続調査の申出

（閉 会）

2 出席議員（16人）

- | | |
|--------------|---------------|
| 1番 荒 川 知 章 君 | 2番 坂 本 登 君 |
| 3番 宮 内 道 則 君 | 4番 寺 本 順 一 君 |
| 5番 古 村 逸 男 君 | 6番 白 坂 康 浩 君 |
| 7番 草 野 安 道 君 | 8番 前 田 徹 一 君 |
| 9番 元 山 秀 志 君 | 10番 宮 尾 秀 行 君 |

11番 平 松 洋 一 君
13番 藤 井 公 明 君
15番 水 口 宣 之 君

12番 川 尻 成 美 君
14番 岡 部 恵美子 君
16番 寺 本 修 一 君

3 欠席議員（0人）

4 説明のため出席した者の職氏名（18人）

町 長	竹 崎 一 成 君	副 町 長	藤 崎 正 司 君
教育委員長	澁 谷 百 鍊 君	教 育 長	竹 浦 裕 道 君
総 務 課 長	山 元 信 作 君	企画財政課長	柳 田 豊 彦 君
税 務 課 長	楠 原 清 照 君	住民生活課長	一 丸 喜八郎 君
福 祉 課 長	櫻 井 優 一 君	農林水産課長	藤 井 哲 郎 君
商工観光課長	園 川 民 夫 君	建 設 課 長	下 田 研 君
上下水道課長	坂 道 征 一 君	会計管理者兼 会 計 室 長	井手口 浩 二 君
田浦基幹支所長	宮 石 幸 人 君	教 育 課 長	長 船 正 純 君
生涯学習課長	宮 下 祐 一 君	農 業 委 員 会 事 務 局 長	告 畑 一 彦 君

5 職務のため出席した事務局職員の職氏名（2人）

議会事務局長	岩 間 睦 生 君	次長(課長補佐)	佐 竹 貴 幸 君
--------	-----------	----------	-----------

議員派遣の件

次のとおり議員を派遣する。

第42回町村議会議長・副議長研修会

期 日 平成29年5月31日（水）
場 所 中野サンプラザホール（東京）
目 的 分権時代に対応する議会の活性化に資するため
派遣議員 副議長

熊本県町村議会議長会正副議長による県選出国會議員への要望活動

期 日 平成29年6月1日（木）
場 所 衆議院・参議院議員会館（東京）
目 的 県内町村政策要望
派遣議員 副議長

平成29年3月17日

芦北町議会議長 寺 本 修 一

開会 午前１０時００分

-----○-----

○議長（寺本修一君） おはようございます。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の日程は、お手元に配付しております議事日程のとおりです。

-----○-----

- 第 １ 議案第 ５号 平成２９年度芦北町一般会計予算
- 第 ２ 議案第 ６号 平成２９年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算
- 第 ３ 議案第 ７号 平成２９年度芦北町介護保険事業特別会計予算
- 第 ４ 議案第 ８号 平成２９年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算
- 第 ５ 議案第 ９号 平成２９年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算
- 第 ６ 議案第１０号 平成２９年度芦北町有温泉事業特別会計予算
- 第 ７ 議案第１１号 平成２９年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算
- 第 ８ 議案第１２号 平成２９年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算
- 第 ９ 議案第１３号 平成２９年度芦北町水道事業会計予算
- 第１０ 議案第１４号 芦北町ふるさと応援寄附金基金条例の制定について
- 第１１ 議案第１５号 芦北町使用料等審議会条例の制定について
- 第１２ 議案第１６号 芦北町特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（寺本修一君） 日程第１、議案第５号「平成２９年度芦北町一般会計予算」から日程第１２、議案第１６号「芦北町特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について」までを一括議題とします。

それでは、定例会初日に各常任委員会に付託しておりましたので、委員長に報告を求めます。質疑は３人の委員長報告が終了した後、一括して行います。

はじめに、草野総務常任委員長。

○総務常任委員長（草野安道君） おはようございます。総務常任委員長報告を申し上げます。

総務常任委員会に付託されました平成２９年度芦北町一般会計予算及び条例３件について審査の経過及び結果を御報告申し上げます。

平成２９年度の一般会計予算総額は前年比１億６，２００万円増の９７億５，２００万円、地方交付税は前年度比２億６，１００万円減の３６億７，８００万円が見込まれておりますが、臨時財政対策債が１，３００万円の増となり、過疎対策事業債などを含め、町債として１０億２，３００万円が措置されております。

企画財政課では、前年度比１億８，２４２万６，０００円増の１５億１，１８０万

円が予算計上されております。主な増額理由は、光情報通信基盤整備事業、芦北高校総合支援事業、ふるさと応援寄附金事業等地方創生関連事業の増によるものです。

主な事業として、集落活動や産業活動の支援、移住等の促進を図るため、新たに地域おこし協力隊事業に取り組まれます。また、山間部を中心とする交通空白地帯に対応するため、10月から乗合制による実証運行が開始されます。

主な質疑を申し上げます。ふるさと応援寄附金事業について返礼品取扱事業者の感想はどうかとの質疑に対し、19社の取扱事業者の会議を行ったが、リピーターにつながる例もあり、良い反響であるとの答弁がありました。29年度からは、地域おこし協力隊にも一部を担ってもらうよう考えているとの説明もありました。

また、光情報通信基盤整備事業の進行状況に対する質疑があり、田浦・湯浦両地域においては、平成30年3月末の開局を見込んでいるとの答弁がありました。また、30年度には大野・吉尾地域及び佐敷地区の一部を整備し、31年3月末には町内全域の開局を目指すとの答弁がありました。

総務課では、前年度比5,696万8,000円増の11億4,268万8,000円が予算計上されております。主な増額の理由は、ふるさと応援寄附金基金積立金の増及び本庁舎放送設備・空調設備取替工事費の増などによるものです。

主な事業として、防犯灯や防犯カメラの設置による防犯対策事業や、新規事業として、地震に対する木造住宅の安全性を確保することを目的とした住宅耐震化促進事業に取り組まれます。

主な質疑を申し上げます。防犯カメラはこれまで何基設置したのかとの質疑があり、平成28年度までに15箇所20基設置したとの答弁がありました。また、委員から、防犯灯の設置については、計画的に推進してほしいとの要望があり、区長からの要望も踏まえ、例年以上の予算を計上しているとの答弁がありました。

議会事務局では、議会費と監査委員費において、前年度比150万5,000円減の1億2,119万8,000円が予算計上されております。主な減額の理由は、議員共済会給付費負担金等の減によるものです。委員から、議員にも会議録の配付をしないのかとの質疑があり、議員には配付するとの答弁がありました。

田浦基幹支所では、庁舎屋上外防水改修工事の終了等により、前年度比1,128万9,000円減の1,024万5,000円が予算計上されております。主な業務として、庁舎・公用車の維持管理、窓口業務等を行い、29年度は公用車3台を廃車し、新規に1台の借り上げが行われます。

主な質疑を申し上げます。窓口の取扱件数はどのくらいかとの質疑に対し、本年2月末現在で戸籍関係、会計事務、その他本庁担当課の受付事務など合計約1万6,600件の事務処理を行っているとの答弁がありました。また、庁舎の活用について

ての質疑があり、維持管理について改修等の問題もあるが、生涯学習課関連の事業に2階部分を活用することになっているとの答弁がありました。

会計室では、前年度比41万7,000円減の176万1,000円が予算計上されております。主な減額の理由は、印刷製本費の減によるものです。

主な質疑を申し上げます。一時借入金利子の計上があるが、年に何回ぐらいの借り入れがあるのかとの質疑に対し、借り入れはしない方針であるが、不測の事態に備えて予算計上しているとの答弁がありました。

税務課では、前年度比147万1,000円減の3,300万6,000円が計上されております。主な減額の理由は、各種業務委託料の減によるものです。

新規事業として、滞納整理支援システムの改修を行い、更に迅速適正な滞納整理を推進するとの説明がありました。

主な質疑を申し上げます。委員から、徴収業務は非常に重要だと思うが、現在、職員の数はどうかとの質疑に対し、現状では係長以下4名で対応しているが、状況に応じて課内で連携をとって対応しているとの答弁がありました。

以上、当委員会に付託されました議案第5号、平成29年度芦北町一般会計予算につきましては、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、本委員会に付託されました条例の審査について御報告申し上げます。

議案第14号「芦北町ふるさと応援寄附金基金条例の制定について」は、本町を応援したいという個人または団体から寄せられた寄附金を適正に管理し、寄附者の意向を反映させた施策の推進を図るため、条例を制定するものであるとの説明がありました。

委員から、事業の詳細が分かり、非常に良いとの意見があり、質疑終了後は討論もなく、議案第14号については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第15号「芦北町使用料等審議会条例の制定について」は、芦北町における使用料等の適正な額について調査、審議する審議会を設置するため条例を制定する必要があるとの説明がありました。

説明の後は質疑・討論もなく、議案第15号については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第16号「芦北町特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について」は、地域おこし協力隊及び使用料等審議会委員に係る報酬を定めるため、条例を改正する必要があるとの説明がありました。

説明の後は質疑・討論もなく、議案第16号については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上で、総務常任委員会に付託されました議案の審査経過と結果報告を終わります。

○議長（寺本修一君） 次に、元山建設経済常任委員長。

○建設経済常任委員長（元山秀志君） 皆さん、おはようございます。

建設経済常任委員長報告を申し上げます。

建設経済常任委員会に付託されました予算5議案について、審査の経過及び結果を御報告申し上げます。

はじめに、議案第5号「平成29年度芦北町一般会計予算について」申し上げます。

まず、建設課では、主要事業の町道射場芦北線改良事業をはじめ、町道の改良及び維持補修、県道関係改良工事等に係る負担金措置、公営住宅の維持管理などに加え、引き続き橋りょうの点検を実施するとともに、新たに2つの地区の雨水排水対策詳細設計を計画しているとの説明があり、予算計上額は8億5,782万円で、前年度比1,288万3,000円の増となっています。

委員から、老朽化している公営住宅の中で、利用者の退去後に新たな入居を停止している団地は幾つあるのかとの質疑に対し、現在5団地について行っているとの答弁がありました。

また、前年度と比べて減額した事業が見られるがとの質疑に対し、緊急性・必要性等を考慮し、事業間で調整を行った結果であり、全体では1.5%の増となっているとの答弁がありました。

次に、農林水産課では、農作業の負担軽減と効率化を目的に、農作業支援事業をはじめ、果樹のハウス施設などに対する支援、農業基盤整備事業に取り組み、林業においては新たに町産材を活用したおもちゃを、1歳児を対象に贈呈する木育事業を推進し、将来的な木材需要の拡大に取り組むとの説明がありました。

漁業については、これまで行ってきた漁業振興事業を引き続き実施しながら、水産物直売施設の運営支援をはじめ、魚介類放流事業では新たに足赤エビの放流にも取り組み、漁業者や漁協等の経営力の強化を図るなど、主要事業について説明がありました。

予算計上額は4億5,880万3,000円で、前年度比9,263万1,000円の減となっています。その主な理由は、水産物直売施設改修工事終了、国の補助対象外となった町有林育成事業及び中山間地域総合整備事業費の減額などによるものです。委員から、足赤エビの稚エビ放流はどのように行うのかとの質疑に対し、八代漁協の種苗施設で生産したものを成長期の生息区域に放流を考えているとの答弁がありました。

また、農振地域の見直しを行う必要があると思うがとの質疑に対し、平成30年度に計画しているとの答弁がありました。

次に、農業委員会事務局では、新たな農業委員会制度に対応するとともに、農地等利用最適化を図るための農地利用集積事業や、遊休農地の発生防止・解消に向けた主要事業の説明があり、予算計上額は1,529万5,000円で、前年度比545万3,000円の増となっています。委員から、農地利用最適化推進委員の活動内容について質疑があり、新制度による各種事業の周知を図るため、説明会・座談会などを積極的に開催し、本事業の推進を行っていくとの答弁がありました。

次に、上下水道課では、飲料水供給施設整備事業で1水道組合に対する補助をはじめ、浄化槽設置整備事業など主要事業について説明があり、予算計上額は2億769万2,000円で、前年度比1,194万7,000円の減となっています。委員から、飲料水供給施設整備事業の対象水道組合について質疑があり、22世帯で構成する1水道組合を計画しているとの答弁がありました。

次に、商工観光課では、芦北海浜総合公園の施設改修をはじめとする観光施設維持管理費及び各種イベント開催等の観光振興事業、プレミアム付き商品券発行補助金等の商工業振興事業など主要事業について説明があり、予算計上額は、4億4,902万4,000円で、大規模な施設改修事業の完了により前年度比6,042万7,000円の減となっています。

委員から、企業誘致はどのように行っていくのかとの質疑があり、県と連携して広く情報発信を行うとともに、既存の企業に対して工場新設や増設などの誘致活動に努めていくとの答弁がありました。

以上、質疑終了後は討論もなく、議案第5号については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第8号「平成29年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算について」申し上げます。

平成29年度は、施設の老朽化等に対する長寿命化に向けた取組の説明があり、予算計上額は2億2,100万円で、前年度比300万円の減となっており、委員から、使用料に対し経費が大きいが修繕料等を見直す考えはないかとの質疑に対し、施設の維持修繕など国の補助等を活用し、計画的に行っていくとの答弁がありました。

以上、質疑終了後は討論もなく、議案第8号については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第9号「平成29年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算について」申し上げます。

平成29年度も管理する浄化槽の維持管理費について説明があり、予算計上額は5,750万円で、前年度比50万円の減となっています。

委員から、浄化槽使用料で町が管理する湯南団地7基とは何かとの質疑に対し、同団地160戸に対し、大型の浄化槽を設置しているとの答弁がありました。

以上、質疑終了後は討論もなく、議案第9号については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第10号「平成29年度芦北町有温泉事業特別会計予算について」申し上げます。

平成29年度も施設の適切な維持管理に努めるとともに、サービスの拡充と集客を図っていくとの説明があり、予算計上額は1億200万円で、施設修繕料などにより前年度比900万円の増となっています。

委員から、温泉センター入浴料の減少の原因はとの質疑があり、近隣温泉施設の改修の影響ではないかと考えているとの答弁がありました。

以上、質疑終了後は討論もなく、議案第10号については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第13号「平成29年度芦北町水道事業会計予算について」申し上げます。

平成29年度は、老朽化した花岡浄水場取水ポンプ更新及び道路改良に伴う配水管布設替工事など主要事業の説明があり、予算計上額は収益的支出予算と資本的支出予算の合計が2億9,900万円で、前年度比1,500万円の増となっています。

委員から、給水人口の減少等による今後の事業運営の見通しについて質疑があり、本年度は将来の経営安定を図るため、料金等の見直しの検討を行うとの答弁がありました。

以上、質疑終了後は討論もなく、議案第13号については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上で、建設経済常任委員会に付託されました議案の審査経過と結果の報告を終わります。

○議長（寺本修一君） 最後に、前田文教厚生常任委員長。

○文教厚生常任委員長（前田徹一君） 皆さん、おはようございます。

文教厚生常任委員長報告を申し上げます。

文教厚生常任委員会に付託されました平成29年度予算関係5議案について、審査の経過及び結果を報告申し上げます。

はじめに、議案第5号「平成29年度芦北町一般会計予算について」申し上げます。

福祉課では、前年度に対し１億７２１万円増の１８億７,３３３万９,０００円が計上されております。増額の主な要因は、保育所等整備事業の実施による児童措置費の増、障がい福祉計画及び障がい者プラン等策定業務委託料並びに自立支援医療費扶助費の増額による障がい者福祉費の増などによるものです。

なお、町が設置する要保護児童対策地域協議会については、児童福祉法の改正により平成２９年４月から専門職の配置が義務付けられており、児童虐待等に対し、これまで以上に専門的な見地から対処していくとの説明がありました。

主な質疑について申し上げます。保育所等整備事業に関する質疑に対し、交付金を活用した計石保育園の園舎建替えに対する補助を行うものであるとの答弁がありました。

住民生活課では、前年度に対し１,９６３万３,０００円増の１８億７,３０６万７,０００円が計上されております。増額の主な要因は、広域行政事務組合ごみ焼却施設の維持修繕に係る清掃総務費の増、ごみ中間処理業務委託の見直しに係る塵芥処理費の増などによるものです。なお、環境対策業務では、住宅太陽光発電システム設置補助金について、太陽光発電システムの普及により、設置コストが下がってきたことから、平成２８年度で終了することとしたとの説明がありました。

主な質疑について申し上げます。水俣芦北広域行政事務組合ごみ共同処理事業が増額となっている要因は何かとの質疑に対し、ごみ焼却施設の中央制御盤の改修が計画されているためであるとの答弁がありました。

教育課では、前年度に対し２,３８７万５,０００円減の４億５,０７６万５,０００円が計上されております。減額の主な要因は、奨学資金貸付事業特別会計への繰出金の減、幼稚園体育館屋根修繕の完了に伴う幼稚園費の減などによるものです。

主な事業として、小・中学校の校務用パソコンの入替え、体育館屋根修繕工事等が計画されています。

主な質疑について申し上げます。小学校部活動の社会体育移行について、本町の現状はどうなっているかとの質疑に対し、全ての部活動が平成３１年度までに社会体育へ移行することから、そのための検討委員会を平成２９年度に設置する予定であるとの答弁がありました。

生涯学習課では、前年度に対し１４２万４,０００円増の３億４,７８４万１,０００円が計上されております。増額の主な要因は、地区公民館建設補助による公民館費の増、町誌編さん事業による文化振興費の増などによるものです。

新規事業としては、町民総合センターの開館２０周年記念事業として、新体操のイベント開催が計画されています。また、芦北町誌編さん事業について、本格的な事業着手がなされるとともに、平成３３年度までの債務負担行為も併せて計上され

ています。

主な質疑について申し上げます。公民館施設整備事業の内容はどのようなものかとの質疑に対し、2地区の公民館が新しく建替えとなり、4件が修繕であるとの答弁がありました。

以上、質疑終了後は討論もなく、当委員会に係ります議案第5号「平成29年度芦北町一般会計予算について」は、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第6号「平成29年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算について」申し上げます。

事業勘定については、前年度に対し2,200万円減の36億4,000万円が計上されております。減額の主な要因は、被保険者数の減少見込みによる後期高齢者支援金の減などによるものです。

直診勘定については、前年度に対し2,410万円減の2,900万円が計上されております。減額の主な要因は、吉尾診療所の人員配置の見直しによる職員人件費の減によるものです。患者輸送車を導入して、患者の送迎を行うことで現在の週3日の診療を2日とするとの説明がありました。

主な質疑について申し上げます。診療日が減ることによるサービスの低下などは生じないかとの質疑に対し、診療日は減るが、新たに通院の送迎を開始することで、患者の不安解消と負担軽減を図り、効率的な診療につなげたいとの答弁がありました。

質疑終了後は討論もなく、議案第6号については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第7号「平成29年度芦北町介護保険事業特別会計予算について」申し上げます。前年度に対し400万円減の22億5,200万円が計上されております。減額の主な要因は、小規模の通所事業所が地域密着型サービスへ移行し、利用の減少が見込まれることによる居宅介護サービス給付費の減によるものです。

主な質疑について申し上げます。老人保健福祉計画・介護保険事業計画委託とはどのようなものかとの質疑に対し、本町における高齢者を取り巻く地域特性や、介護保険給付状況等を把握し、今後必要とされるサービス等に関する計画を策定するものであるとの答弁がありました。

質疑終了後は討論もなく、議案第7号については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第11号「平成29年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算について」申し上げます。前年度に対し300万円減の3,400万円が計上されてお

ます。減額の要因は、２８年度からの継続貸付者が減少するためです。

主な質疑について申し上げます。奨学資金の返済免除について検討されているかとの質疑に対し、他自治体の情報収集等を行っているが、現在のところは考えていないとの答弁がありました。これに対し、委員からは地元に残る人などに対する免除制度などを検討していただきたいとの意見が出されました。

質疑終了後は討論もなく、議案第１１号については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第１２号「平成２９年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算について」申し上げます。前年度に対し１４０万円増の２億６，８６０万円が計上されております。増額の主な要因は、県全体の保険料賦課総額の増に伴う広域連合納付金の増によるものです。

主な質疑について申し上げます。本町の後期高齢者の人口及びピーク予想はとの質疑に対し、平成２８年１２月末現在で４，３２７名である。なお、ピークは平成２７年度であったと考えているとの答弁がありました。

質疑終了後は討論もなく、議案第１２号については、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上で、文教厚生常任委員会に付託されました議案の審査経過と結果の報告を終わります。

○議長（寺本修一君） 委員長報告が終わりました。

これから委員長報告に対する質疑を一括して行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 質疑なしと認めます。

これから日程第１、議案第５号から日程第１２、議案第１６号までを順次討論を行い、採決します。

日程第１、議案第５号、平成２９年度芦北町一般会計予算について、討論はありませんか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） まず、委員長報告に反対者の発言を許します。坂本君。

○２番（坂本 登君） 議案第５号、平成２９年度芦北町一般会計予算に対し、反対の立場から討論を行います。

この予算案は、山間部を中心とする交通空白地帯に対応するため、乗合性による実証運行の開始の手続きを進め、１０月からの運行開始を目指すことや、地域おこし協力隊事業、また引き続き１８歳までの子ども医療費助成事業、プレミアム商品券発行補助金など、新規事業または引き続き事業として予算化しており、全体とし

ては限られた財源で、町民要求を具体化してであると評価できます。

しかし、これまで住民の要求を一般質問等で取り上げてきた住宅リフォーム助成制度や学校給食費の無償化などが、この予算案に反映されていません。給食費については、一部助成に取り組む姿勢さえ見えません。また、町交際費は昨年度に引き続き３００万円を計上してあります。毎年、特産品が他の項目と比べて多すぎることで、また毎月の詳細について公表していないとして反対してきましたが、改善は見られません。町交際費の削減については、町長の政治姿勢の問題として意見を述べてきました。各担当課の日々の努力と研究によって健全財政を維持していますが、地方財政が圧迫されている中で、思い切った無駄をなくし、住民の求めるダイナミックで効率的な事業及び財政運営を行うことが必要だと思います。町交際費については、町長自らできることは自ら先頭に立つべきだと思います。

以上の理由で、議案第５号「平成２９年度芦北町一般会計予算」に反対です。

○議長（寺本修一君） 次に、委員長報告に賛成者の発言を許します。水口君。

○１５番（水口宣之君） 賛成討論を申し上げます。

今、地方の時代でトップセールスは極めて重要だと思います。従いまして、賛成です。

○議長（寺本修一君） これで討論を終わります。

これから議案第５号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議あり」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議がありますので、起立によって採決します。

委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（寺本修一君） 起立多数です。したがって、議案第５号は原案のとおり可決しました。

日程第２、議案第６号「平成２９年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算について」討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 討論なしと認めます。

これから議案第６号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。したがって、議案第6号は原案のとおり可決しました。

日程第3、議案第7号「平成29年度芦北町介護保険事業特別会計予算について」討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 討論なしと認めます。

これから議案第7号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。したがって、議案第7号は原案のとおり可決しました。

日程第4、議案第8号「平成29年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算について」討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 討論なしと認めます。

これから議案第8号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。したがって、議案第8号は原案のとおり可決しました。

日程第5、議案第9号「平成29年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算について」討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 討論なしと認めます。

これから議案第9号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。したがって、議案第9号は原案のとおり可決しました。

日程第6、議案第10号「平成29年度芦北町有温泉事業特別会計予算について」討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 討論なしと認めます。

これから議案第10号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。したがって、議案第10号は原案のとおり可決しました。

日程第7、議案第11号「平成29年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算について」討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 討論なしと認めます。

これから議案第11号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。したがって、議案第11号は原案のとおり可決しました。

日程第8、議案第12号「平成29年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算について」討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 討論なしと認めます。

これから議案第12号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。したがって、議案第12号は原案のとおり可決しました。

日程第9、議案第13号「平成29年度芦北町水道事業会計予算について」討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 討論なしと認めます。

これから議案第13号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定する

ことに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。したがって、議案第１３号は原案のとおり可決しました。

日程第１０、議案第１４号「芦北町ふるさと応援寄附金基金条例の制定について」討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 討論なしと認めます。

これから議案第１４号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。したがって、議案第１４号は原案のとおり可決しました。

日程第１１、議案第１５号「芦北町使用料等審議会条例の制定について」討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 討論なしと認めます。

これから議案第１５号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。したがって、議案第１５号は原案のとおり可決しました。

日程第１２、議案第１６号「芦北町特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について」討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 討論なしと認めます。

これから議案第１６号を採決します。

お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。したがって、議案第１６号は原案のとおり可決しました。

-----○-----

第 13 議員派遣の件

○議長（寺本修一君） 日程第 13「議員派遣の件について」を議題とします。

お諮りします。議員派遣については、地方自治法第 100 条及び会議規則第 125 条の規定により、お手元に配付のとおり派遣したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。したがって、お手元に配付のとおり議員派遣することに決定しました。

議員派遣につきましては、やむを得ず目的先、期間及び派遣議員について変更を生ずる場合には、議長に一任願いたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。したがって、議長一任することに決定しました。

-----○-----

第 14 総務常任委員会の閉会中の継続調査の申出

第 15 建設経済常任委員会の閉会中の継続調査の申出

第 16 文教厚生常任委員会の閉会中の継続調査の申出

第 17 議会運営委員会の閉会中の継続調査の申出

○議長（寺本修一君） 日程第 14 から日程第 17 までの各委員会の閉会中の継続調査の申出を一括議題とします。

各常任委員長及び議会運営委員長から、お手元に配付の申出書のとおり提出されております。

お諮りします。各委員長から申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（寺本修一君） 異議なしと認めます。したがって、各委員長から申出書のとおり、閉会中の継続調査にすることに決定しました。

これで本日の日程は全て終了しました。

会議を閉じます。

平成 29 年第 2 回芦北町議会定例会を閉会します。

御苦労さまでした。

-----○-----

閉会 午前 10 時 46 分

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する。

芦北町議会議長

署名議員

署名議員